



PT0-17627

ポータブルガスモニター
GX-3R
取扱説明書
(PT0-164)

理研計器株式会社

〒174-8744 東京都板橋区小豆沢 2-7-6

ホームページ <https://www.rikenkeiki.co.jp/>

目次

1 製品のアウトライン	4
1-1. はじめに	4
1-2. 使用目的	4
1-3. 危険、警告、注意、注記の定義	6
1-4. 規格および防爆仕様の確認方法	6
2 安全上、大切なお知らせ	7
2-1. 危険事項	7
2-2. 警告事項	8
2-3. 注意事項	9
2-4. セーフティーインフォメーション	11
3 製品の構成	14
3-1. 本体および標準付属品	14
本体	14
標準付属品	15
3-2. 各部の名称と働き	16
本体	16
LCD 表示部	17
4 警報動作	18
4-1. ガス警報動作	18
4-2. 故障警報動作	20
5 使用方法	21
5-1. ご使用にあたって	21
5-2. 始動準備	21
5-2-1. リチウムイオン電池の充電	21
5-3. 始動方法	23
電源を入れる	23
電源投入から測定画面までの遷移	24
5-4. エア校正	27
エア校正手順	27
5-5. 検知する	28
5-5-1. 基本動作フロー	28
5-5-2. 測定モード	29
5-6. 電源を切る	31
6 設定方法	32
6-1. ディスプレイモード	32
6-1-1. ディスプレイモードを表示する	32
6-1-2. ディスプレイモードの表示内容	32
6-2. ディスプレイモードの設定	34
6-2-1. PEAK 値表示のクリア	34
6-2-2. 可燃性ガス読替の設定	35
6-2-3. ロングライフバッテリーの設定	37
6-2-4. 校正記録の表示	38
6-2-5. バンプ記録の表示	39
6-2-6. 警報設定値の表示	40
6-3. ユーザーモード	41
6-3-1. ユーザーモードを表示する	41
6-3-2. ユーザーモードの設定項目	42
6-4. ユーザーモードの設定	44
6-4-1. バンプテスト	44
6-4-2. ガス校正	44
6-4-3. 校正期限設定	44
6-4-4. バンプテストの設定	47
6-4-5. 警報点設定	52

6-4-6. ランチブレークの ON/OFF	54
6-4-7. コンファームーションビープ設定	54
6-4-8. LCD 点灯時間設定	56
6-4-9. キー操作音の ON/OFF	57
6-4-10. ディスプレイモード項目表示の ON/OFF	57
6-4-11. 日時設定	58
6-4-12. ユーザーパスワード設定	58
6-4-13. ROM/SUM 表示	59
7 保守点検	60
7-1. 点検の頻度と点検項目	60
メンテナンスサービスについて	61
7-2. ガス校正	62
7-2-1. ガス校正の準備	62
7-2-2. ガス校正の設定メニュー	64
7-2-3. エア校正	65
7-2-4. AUTO 校正	66
7-2-5. AUTO 校正から測定開始画面への切り替え	68
7-2-6. AUTO 校正のシリンドー設定	68
7-2-7. AUTO 校正の校正ガス濃度選択	69
7-3. バンプテスト(BUMP TEST)	70
7-3-1. バンプテスト(BUMP TEST)の実施	70
7-3-2. バンプテスト(BUMP TEST)からの測定開始画面への切り替え	71
7-4. 清掃方法	71
7-5. 各部品の交換	72
7-5-1. 定期交換部品	72
7-5-2. フィルタの交換	73
8 保管および廃棄について	76
8-1. 保管または長期間使用しない場合の処置	76
8-2. 再度使用する場合の処置	76
8-3. 製品の廃棄	77
9 トラブルシューティング	78
9-1. 機器の異常	78
9-2. 指示値の異常	80
10 製品仕様	81
10-1. 仕様一覧	81
10-2. 付属品一覧	84
11 付録	85
データロガ機能	85
100%LEL=ppm 換算表	87
製品保証	88
センサ保証	88

1

製品のアウトライン

1-1. はじめに

この度は、ポータブルガスモニターGX-3R(以降「本器」)をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。まず、お買い求めの製品型番と本取扱説明書が対象とする製品型番が一致することをご確認ください。

本器は、十分に訓練された、適切な方のみご使用ください。

本取扱説明書に記載された保守・点検については、訓練された、適切な方のみ行ってください。本取扱説明書に記載されていない保守・点検については、弊社または弊社指定のサービス員にて行う必要がありますので、弊社までご用命ください。

この取扱説明書は、本器を正しくご使用いただくための取扱方法と仕様が記載されています。本器を初めてご使用になる方、および既にご使用経験のある方も本書をよくお読みいただき、内容を理解した上で実際にご使用ください。

本取扱説明書は、将来参照できるようにするために、大切に保管してください。

なお、製品改良のために、この説明書の内容を将来予告なしに変更することがあります。また、この説明書の全部または一部を無断で複写または転載することを禁じます。

本取扱説明書の他に、本製品の別売品(オプション)用の取扱説明書があります。以下の別売品(オプション)を使用する場合には、各取扱説明書についても本取扱説明書と合わせて参考してください。

- 1)ポンプユニット RP-3R 用取扱説明書(PT0-166)
- 2)データロガマネジメントプログラムソフト SW-GX-3R 用取扱説明書(PT0-178)
- 3)ドッキングステーション SDM-3R 用取扱説明書 (PT0-167)

保証期間の内外を問わず本器をご使用することによって生じたいかなる事故および損害の補償はいたしません。保証書に記載される保証規定を必ずご確認ください。

また、本書では製品の仕様を以下のように省略している場合があります。

防爆構造電気機械器具型式検定(国内防爆)仕様：日本仕様

ATEX, IECEx 仕様：海外仕様

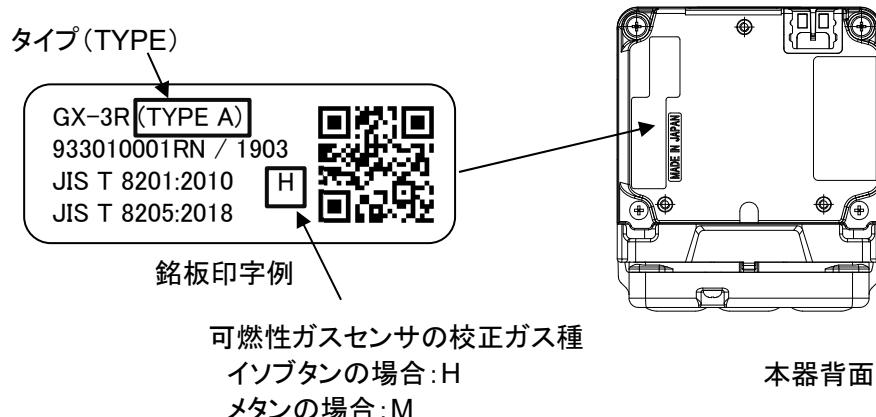
1-2. 使用目的

本器は、最大3種類のセンサで4種類のガスを1台で検知できるマルチガスモニターです。

本器には検知対象ガスの組合せにより数種類のタイプ(TYPE)があります。ご使用前に仕様を再度ご確認いただき、目的に応じた正しいガス検知を行ってください。

作業場の環境空気中の化学物質濃度を測定するためのガス検知器です。大気中の有害ガス・可燃性ガス・酸素の濃度を測定し、設定した警報濃度に達したときに警報を発報し、ガス中毒や酸欠への危険を知らせます。

製品に貼付された銘板から、お手元にある製品のタイプ(TYPE)を、そしてタイプ(TYPE)から検知対象ガスを確認してください。タイプ(TYPE)は、型式の後ろに記載されています。
また、検知対象ガスに可燃性ガスが含まれる仕様の場合、校正ガスがイソブタン(HC)またはメタン(CH₄)どちらであるか、QRコードの左側に印字されています。



<TYPE 別検知対象ガス(搭載センサ型式)一覧>

TYPE 名	検知対象ガス(搭載センサ型式)				
	可燃性ガス <HC または CH ₄ > (NCR-6309)	酸素 (ESR-X13P)	一酸化炭素/ 硫化水素 (ESR-A1DP)	硫化水素 (ESR-A13i)	一酸化炭素 (ESR-A13P)
TYPE A	○	○	○		
TYPE B	○	○		○	
TYPE C	○	○			○
TYPE CH	○	○			○
TYPE D	○	○			
TYPE E		○		○	
TYPE F		○			○
TYPE FH		○			○
TYPE G	○				
TYPE I	○				○
TYPE IH	○				○
TYPE K				○	
TYPE L	○			○	
TYPE M			○		
TYPE N					○
TYPE P ※2		○			

※1 一酸化炭素センサ(ESR-A1CP)は水素による干渉を低減する補正機能を備えたセンサです。

この機能は最大 2000ppm の水素に対して機能します。(ただし、40°Cを超える環境で 15 分以上使用した場合、水素干渉の影響を受け、実際の一酸化炭素濃度より高く指示する可能性があります。)

※2 ATEX / IECEx 仕様のみ

1-3. 危険、警告、注意、注記の定義

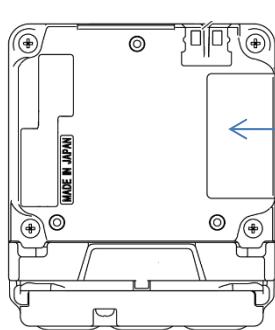
本取扱説明書では、安全かつ効果的な作業が行えるように、次の見出しを使用しています。

 危険	取り扱いを誤った場合、「人命、人体または物に重大な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。
 警告	取り扱いを誤った場合、「身体または物に重大な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。
 注意	取り扱いを誤った場合、「身体または物に軽微な被害を及ぼすことが想定される」ということを意味します。
注記	取り扱い上のアドバイスを意味します。

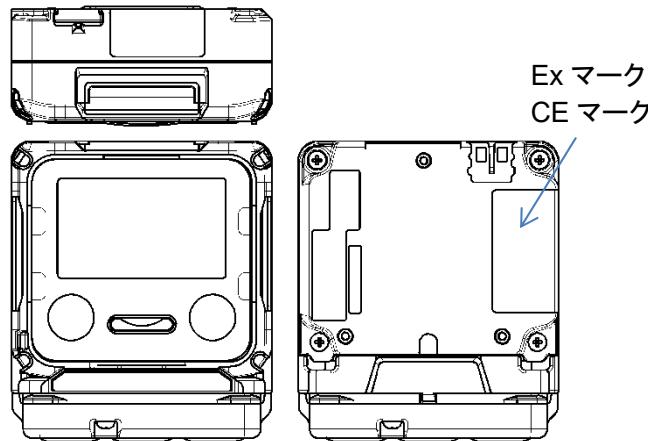
1-4. 規格および防爆仕様の確認方法

本器は、規格や防爆検定の種類によって仕様が異なります。ご使用になる前に、お手元にある製品の仕様を確認してください。

製品の仕様は、製品に貼付された銘板より確認してください。



防爆構造電気機械器具型式検定
(国内防爆)仕様の銘板例



ATEX / IECEx 仕様の銘板例

2

安全上、大切なお知らせ

本器の性能を維持し、安全にお使いいただくため、以下の危険、警告、注意事項を守ってください。

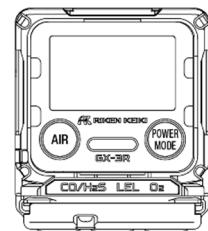
2-1. 危険事項



危険

防爆に関して

- 回路・構造などの改造または変更は、行わないでください。
- 酸素濃度の測定では、空気と可燃性ガスまたは毒性ガスの混合物以外の測定をしないでください。
- 本器を携帯して危険な場所で使用する場合は、静電気の帶電による危険防止総合対策として、
 - ① 使用する衣服は帯電防止作業服、履物は導電性履物(帯電防止作業靴)を使用する
 - ② 屋内では、導電性作業床(漏洩抵抗 $10M\Omega$ 以下)の環境で使用するとしてください。
- 定格は以下の通りです。
電源 電池パック(BP-3R) : DC3.7V 200mA
充電端子 許容電圧 : DC6.3V (SELV 電源に限る)
周囲温度 : -40°C ~ +60°C
(周囲温度とは防爆性能を維持できる温度範囲であり、製品性能を満足する使用温度範囲ではありません。使用温度範囲については「10-1. 仕様一覧」を参照してください。)



本体

ご使用において

- マンホールの中や密閉された場所を測定する場合、絶対にマンホールの入り口に身を乗りだしたり、中をのぞき込んだりしないでください。酸素欠乏空気、その他のガスが吹き出す可能性があり危険です。

2-2. 警告事項



警告

万が一異常が見つかった場合

- 万一、本器に異常が見つかった場合は、速やかに販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
- 最寄りの営業所につきましては、弊社ホームページよりご確認ください。
- ホームページ <https://www.rikenkeiki.co.jp/>

センサの取り扱い

- 本器内の定電位電解式センサは絶対に分解しないでください。内部の電解液が皮膚に触れると、皮膚がただれる恐れがあります。また目に入ると失明する恐れがあります。衣服に付着した場合には、変色したり、穴が開いたりする恐れがあります。万一、電解液に触れた場合は、触れた部分を直ちに水で十分洗浄してください。酸素センサの校正および調整時は、窒素以外のバランスガスを使用しないでください。

周辺空気でのエア調整

- エア調整を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスや干渉ガスなどが存在する状態で行うと、正しい調整が行えず、実際にガスが漏洩した場合、正しく検知できず危険です。

ガス警報が出たときの対応

- ガス警報を発した場合は大変危険です。お客様の判断により安全を確保した上で適切な処置を行ってください。

電池残量の確認

- ご使用前に電池残量を確認してください。初めて使用する前および長期間使用しなかった場合は、電池が消耗していることが考えられます。充電してからご使用ください。
- 電池電圧低下警報が発せられると、ガス検知を行えなくなります。使用中に発報した場合は、電源を切り、安全な場所で速やかに充電してください。

その他

- 雨などの水によってセンサ部がおおわれると、ガスを検知できなくなります。このため、降雨に晒された状態で使用したり、水中に沈めたりすることはおやめください。
- 装着の際、必ず本器が大気に接触するように装着してください。ふさがれた状態の場合、正しい測定ができなくなり、事故につながる恐れがあります。
- 火中に投げ入れないでください。
- 洗濯機や超音波洗浄機などで本器を洗わないでください。
- ブザー放音口をふさがないでください。警報音が出なくなります。
- 本器は身体に装着して使用する個人装着型のガス検知器です。よって閉囲場所で使用する場合は、閉囲場所進入前に別途用意したロープで本器を吊り下げるか、棒状のものの先端に括り付けるか、または特別付属品の吸引ポンプユニット RP-3R(別売)を接続し、閉囲場所の外側から雰囲気を検知して予め安全を確認してください。
- 閉囲場所は酸素欠乏空気、その他のガスが吹き出す可能性があり危険です。入口に身を乗り出したり、中をのぞき込んだりしないでください。

2-3. 注意事項



注意

- 油・薬品などかかるような場所では使用しないでください。
 - ・本器に油・薬品など液体がかかるような場所は避けて使用してください。
 - ・本器を水や泥の溜まるような場所に置かないでください。このような場所に置くとブザー放音口などから水や泥が入り故障の原因となることがあります。
- 使用温度範囲を超える場所では使用しないでください。
 - ・本器の使用温度範囲は下記の通りです。使用範囲を超えた高温、低温環境下でのご使用は避けてください。
 <連続的環境>-20～+50°C
 <一時的環境>-40～+60°C
 - ・直射日光が当たる場所での長時間にわたる使用は極力避けてください。
 - ・炎天下駐車の車内での保管は避けてください。
- 本器内に結露が発生しないよう使用湿度範囲を守ってください。
 本器中に結露が発生すると、詰まつたり、ガスが吸着したりするなど正確なガス検知を行えなくなりますので、結露の発生は厳禁となります。本器の使用環境と併せて、サンプリング先の温度・湿度には十分注意し、本器中に結露が発生しないようにしてください。
- 本器の近くでは、トランシーバーを使用しないでください。
 - ・本器の近くでトランシーバーなどによる電波が出力する機器があると、指示に影響する場合があります。トランシーバーなどを使用する場合には、本器から離れ、影響の出ないところで使用してください。
 - ・強い電磁波の発生する機器(高周波機器・高電圧機器)の近くでのご使用は避けてください。
- 動作状態表示が点滅動作していることを確認して使用してください。
 動作状態表示が点滅していない場合は、正しいガス検知ができません。

センサに関して

- ・シリコーン化合物、ハロゲン化物、高濃度の硫化物、高濃度の溶剤ガスなどが存在する環境にて可燃性ガスセンサを使用した場合、センサの寿命が短くなったり、センサの可燃性ガスに対する感度が低下し、正確な指示を得られなかつたりする恐れがありますので、注意してください。やむを得ず使用する場合は使用時間を極力短くし、使用後は新鮮な大気中に放置し、指示が戻ったことを確認し、指示がふらつくなどの異常がないことを確認してください。
- ・本器の可燃性ガスセンサ<%LEL>が正確なガス検知および濃度表示をするには、ある一定以上の酸素濃度が必要です。
- ・本器に急激な圧力変化を与えないでください。酸素の指示値が一時的に変化して正確な測定ができません。
- ・酸素センサの校正および調整時は、窒素以外のバランスガスを使用しないでください。酸素の指示誤差が大きくなり、正確な測定ができません。
- 定期的な点検を必ず行ってください。
 本器は安全確保のために定期的な点検を必ず行って使用してください。点検を行わずに使用を続けるとセンサの感度が変化し、正確なガス検知を行えません。
- その他
 - ・むやみにボタンを押すと、各設定が変更されてしまい、警報が正常に作動しないことがあります。本取扱説明書に記載されている以外の操作は行わないでください。
 - ・落下させたり、衝撃を与えたたりしないでください。防爆性能、防水・防じん性能、ガス検知性能の低下を招くことがあります。
 - ・本器を充電しながら使用しないでください。



注意

- ブザーの放音口やセンサの開口部を、先の尖ったもので突かないでください。水や異物などが浸入して、故障や破損の原因となります。ブザー放音口をテープなどでふさがないでください。機器の内圧の調整ができなくなり、故障の原因となる可能性があります。
- LCD 表示部のパネルシートを剥がさないでください。防水・防塵性能が損なわれます。
- 赤外線通信ポート部にラベルなどを貼り付けないでください。赤外線通信ができなくなります。
- 使用に関して
 - ・低温度の環境では、電池の性能上、使用時間が短くなります。
 - ・低温時は LCD 表示の応答が遅くなる場合があります。
 - ・エア校正は、使用環境に近い状態の圧力、温湿度条件下かつ新鮮な大気中で行ってください。
 - ・エア校正は指示が安定してから行ってください。
 - ・保管場所と使用場所の温度が 15°C以上急変するような場合、電源を入れた状態で使用場所と同様の環境下にて 10 分程度馴染ませ、新鮮な大気中でエア校正を実施してから使用してください。
 - ・本器の汚れを拭き取る際、水をかけたり、アルコールやベンジンなどの有機溶剤を用いたりしないでください。本器表面が変色したり、損傷したりする可能性があります。
 - ・長期保管後、再度使用する場合は必ずガス校正を行ってください。ガス校正を含めて、再調整は弊社営業所までご連絡ください。

2-4. セーフティーアイノベーション

防爆製品としての性能を満たすため、次の事項をお守りください。

機器の概要

- ・GX-3R は最大 3 種類のセンサで 4 種類のガスを検知することができます。
- ・GX-3R の検知対象ガスは可燃性ガス(%LEL)、酸素(O₂)、硫化水素(H₂S)、一酸化炭素(CO)です。
- ・測定結果を LCD に表示し、設定に応じて LED およびブザーを介してガス警報を発報します。
- ・検知方式は拡散式です。ポンプは内蔵していません。

電源

- ・GX-3R の電源は内蔵しているリチウムイオン充電池です。(充電池はお客様にて交換できません。)
- ・リチウムイオン充電池を充電する場合は、専用の AC アダプターを使用する必要があります。

<国内防爆仕様>

防爆構造	本質安全防爆構造
防爆等級	Ex ia II CT4 Ga
周囲温度*	-40°C～+60°C
周囲温度(充電時)	0°C～+40°C
定格	電源 電池パック(BP-3R) DC3.7V 200mA 充電端子 許容電圧 DC6.3V (SELV 電源に限る)
準拠する指針	JNIOSH-TR-46-1:2015 JNIOSH-TR-46-6:2015

*周囲温度とは防爆性能を維持できる温度範囲であり、製品性能を満足する使用温度範囲ではありません。

使用温度範囲については「10-1. 仕様一覧」を参照してください。



危険

- ・ 充電は、安全な場所で、付属の充電器を使用して行ってください。
- ・ 充電は、0°C～+40°Cの環境下で行ってください。



警告

- ・ 回路・構造などの改造または変更は、行わないでください。
- ・ 酸素濃度の測定では、空気と可燃性ガスまたは毒性ガスの混合物以外の測定をしないでください。
- ・ 本器を携帯して危険な場所で使用する場合は、静電気の帯電による危険
防止総合対策として、
① 使用する衣服は帯電防止作業服、履物は導電性履物(帯電防止作業靴)を使用する
② 屋内では、導電性作業床(漏洩抵抗 10MΩ以下)の環境で使用する
としてください。

<ATEX/IECEx 仕様>

防爆構造	本質安全防爆構造および耐圧防爆構造								
防爆等級	Ex da ia I Ma , Ex da ia IIC T4 Ga (可燃性ガスセンサ NCR-6309 を搭載する場合) Ex ia I Ma , Ex ia IIC T4 Ga (可燃性ガスセンサ NCR-6309 を搭載しない場合)								
	I M1 Ex da ia I Ma , II 1 G Ex da ia IIC T4 Ga (可燃性ガスセンサ NCR-6309 を搭載する場合) I M1 Ex ia I Ma , II 1 G Ex ia IIC T4 Ga (可燃性ガスセンサ NCR-6309 を搭載しない場合)								
周囲温度	-40°C～+60°C								
周囲温度(充電時)	0°C～+40°C								
電気的仕様	・リチウムイオン充電池: マクセル充電池 型式 ICP463048XS、またはパナソニック充電池 型式 UF463048F ・電池は専用の AC アダプターまたは IEC60950 で承認された SELV 電源、または IEC62368-1 で承認された ES1 電源からの電力を用いて充電してください。 充電器からの最大電圧は、DC6.3V を超えないようにしてください。								
認証番号	・IECEx : IECEx DEK 17.0050X ・ATEX : DEKRA 17 ATEX 0103X								
適用規格	<table border="0"> <tr> <td>・ IEC 60079-0:2017</td> <td>・ EN IEC 60079-0:2018</td> </tr> <tr> <td>・ IEC 60079-1:2014-06</td> <td>・ EN 60079-1:2014</td> </tr> <tr> <td>・ IEC 60079-11:2011</td> <td>・ EN 60079-11:2012</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ EN 50303:2000</td> </tr> </table>	・ IEC 60079-0:2017	・ EN IEC 60079-0:2018	・ IEC 60079-1:2014-06	・ EN 60079-1:2014	・ IEC 60079-11:2011	・ EN 60079-11:2012		・ EN 50303:2000
・ IEC 60079-0:2017	・ EN IEC 60079-0:2018								
・ IEC 60079-1:2014-06	・ EN 60079-1:2014								
・ IEC 60079-11:2011	・ EN 60079-11:2012								
	・ EN 50303:2000								

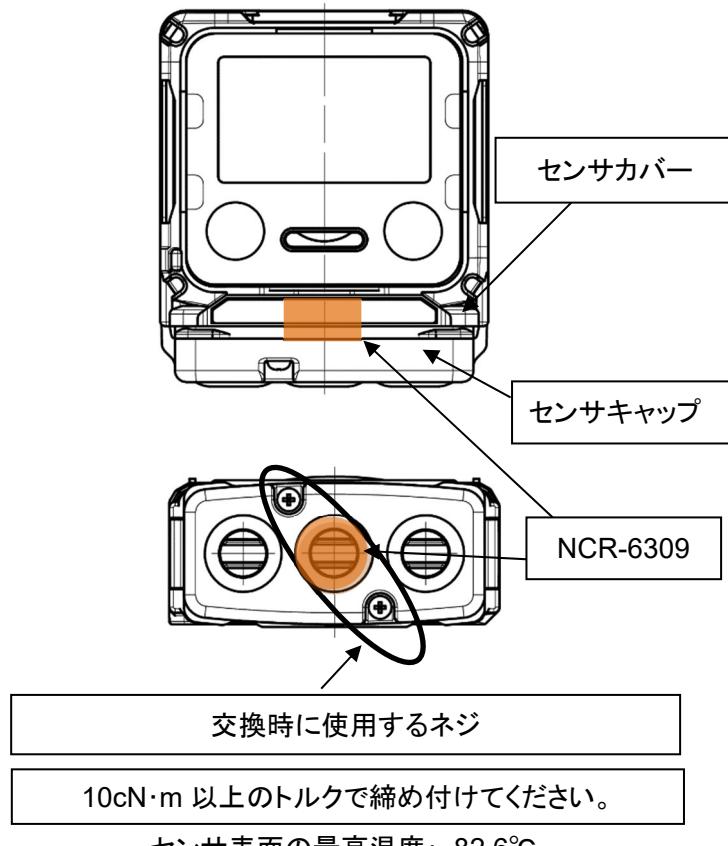
特定使用条件

ポータブルガスモニターが保護タイプ Ex da の熱触媒ガスセンサー型式 NCR-6309 を装備している場合:

- ・Group I の条件で使用する場合、NCR-6309 に強い衝撃を与えないでください。
破損等により耐圧防爆性能が損なわれる可能性があります。
- ・本センサは機械的損傷のおそれ「低」の耐圧防爆条件を適用しています。
- ・センサ型式 NCR-6309 は、紫外線に曝されたり、完全に密閉されていない機器に使用しないでください。
- ・センサ型式 NCR-6309 は耐圧防爆構造であり、指定部品以外の分解、改造は行わないでください。
- ・油、作動油のかかる場所での使用はしないでください。

**警告**

- ・機器を分解または改造しないでください。
- ・本器において可燃性ガスセンサ NCR-6309 のみ耐圧防爆構造です。
- ・本器は防爆製品ですので、指定の部品以外に分解または改造しないでください。
- ・本器は耐圧防爆構造のセンサを内蔵しています。指定の通りに組み立てられなかった場合、防爆性能が損なわれる可能性があります。フィルターを交換する場合は、専用の部品やトルクで正しく装着してください。
- ・万が一筐体が破損した場合は、使用を止めて修理してください。
- ・センサを紫外線にさらしたり、十分に覆われていない状態で使用しないでください。
- ・危険場所で充電しないでください。
- ・専用の充電器以外で充電しないでください。

**機器番号**

INST. No. 00 0 000 0000 00
 A B C D E

- A: 製造年 (0-9)
- B: 製造月 (1-9 月、X<10 月>、Y<11 月>、Z<12 月>)
- C: 製造ロット
- D: シリアルナンバー
- E: 工場コード

RIKEN KEIKI Co.,Ltd.

2-7-6 Azusawa, Itabashi-ku, Tokyo, 174-8744, Japan
 Phone : +81-3-3966-1113
 Fax : +81-3-3558-9110
 E-mail : intdept@rikenkeiki.co.jp
 Web site : <https://www.rikenkeiki.co.jp>

3 製品の構成

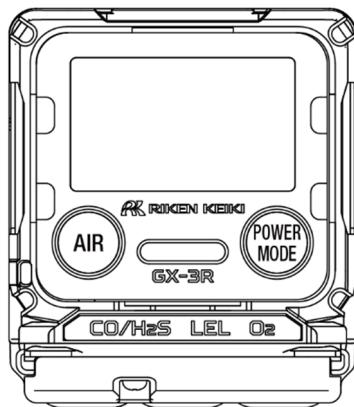
3-1. 本体および標準付属品

梱包箱を開けて、本器と付属品を確認してください。

万一、足りないものがありましたら、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

本体

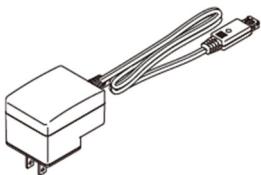
本器の各部の名称と働きおよび LCD 表示については、「3-2. 各部の名称と働き」(P.16)を参照してください。



GX-3R 本体

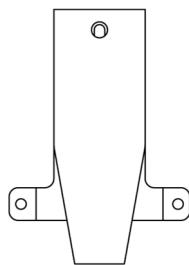
標準付属品

AC アダプター
1 個



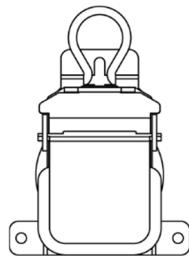
ベルトクリップ
1 個

本器をベルトにかけられます。
(日本仕様にのみ付属)



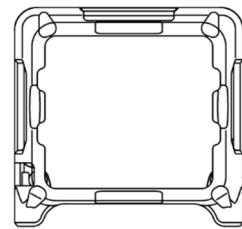
アリゲータークリップ
1 個

本器をポケット上部に取り付けられます。
(海外仕様にのみ付属)



プロテクトカバー
1 個

何かにぶつけたときや落下などの衝撃から、本器を保護します。

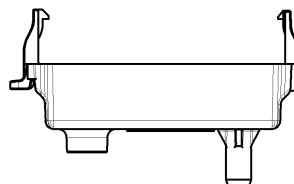


ハンドストラップ
1 本



ガス校正キャップ
(簡易版)
1 個

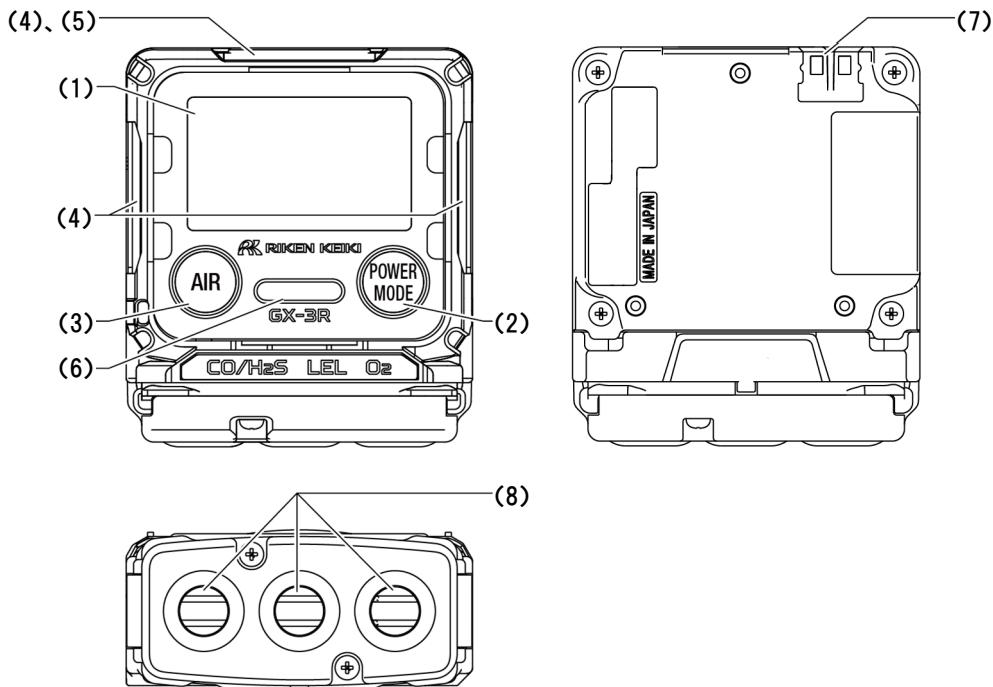
ガス校正やバンプテストをするために使用します。
(海外仕様にのみ付属)



3-2. 各部の名称と働き

本体各部の名称と働きおよび LCD 表示について記載しています。

本体



名称	主な機能
(1) LCD 表示部	ガスの種類やガス濃度などを表示します。
(2) POWER/MODE ボタン	電源を入/切します。または設定モードなどにおいて確定操作を行うためのボタンです。
(3) AIR ボタン	測定モードでは、エア校正を行います。または設定モードなどにおいて選択操作を行うためのボタンです。
(4) 警報窓	警報時に、ランプが赤く点滅します。
(5) 赤外線通信ポート	データロガマネジメントプログラム使用時に、パソコンとデータ通信を行います。
(6) ブザー放音口	操作音や警報音を放出する口です。(ふさがないでください。)
(7) 充電用接点	充電器(EPU15-102-L6)との接点です。
(8) センサ部	各ガスを検知するためのセンサが搭載されています。

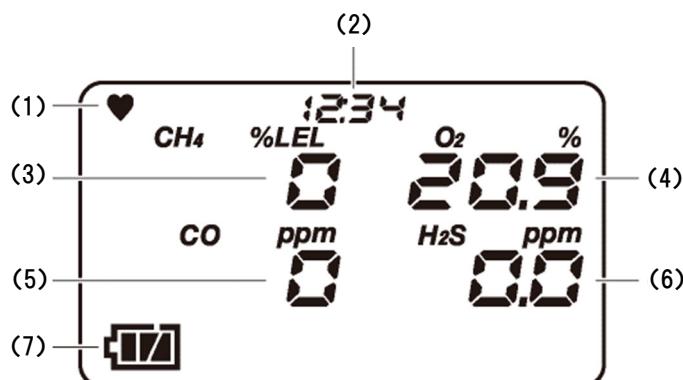


注意

- ブザー放音口やセンサの開口部を、先の尖ったもので突かないでください。水や異物などが侵入して、故障や破損の原因となります。
- LCD 表示部のパネルシートを剥がさないでください。防水・防塵性能が損なわれます。
- 赤外線通信ポートにラベルやシールなどを貼り付けないでください。赤外線通信ができなくなります。
- ブザー放音口をテープなどでふさがないでください。機器の内圧の調整ができなくなり、故障の原因となる可能性があります。

注記

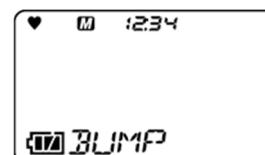
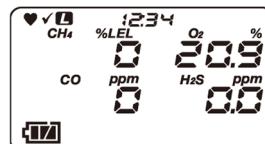
- 本取扱説明書では、複数の機能名が割り付けられたボタンを、操作説明で次のような名称としています。
例) 名称「POWER/MODE ボタン」を、
・電源入/切の操作時には **POWER** ボタン
・設定時の確定操作には、**MODE** ボタン
としています。

LCD 表示部

名称	主な機能
(1) 動作状態表示	動作状態を表示します。正常時は点滅します。
(2) 時計表示	時刻を表示します。
(3) 可燃性ガス 濃度表示	ガス濃度を数字で表示します。
(4) 酸素 濃度表示	可燃性ガスセンサ以外のセンサの濃度表示は 1 秒ごとに更新されます。
(5) 一酸化炭素 濃度表示	可燃性ガスの濃度表示は 5 秒ごと(ロングバッテリー動作時は 15 秒ごと)に更新されます。
(6) 硫化水素 濃度表示	電池残量を表示します。電池残量の目安は注記を参照してください。
(7) 電池残量表示	電池残量を表示します。電池残量の目安は注記を参照してください。

注記

- 電池残量の目安を以下のように表示します。
 - 十分に残っています。
 - 少なくなっています。
 - 充電してください。
 さらに電池残量が少なくなると、電池マークが点滅します。
- バンプ期限切れ表示設定が ON 設定の場合、バンプ期限内には LCD 左上に「✓」マークが表示されます。バンプ期限表示設定については「6-4-3. 校正期限設定」(P.44)を参照してください。
- ロングバッテリー機能が ON 設定の場合、LCD 左上に「L」マークが表示されます。
- ユーザー mode 選択中は LCD 左上に「M」マークが表示されます。



4

警報動作

4-1. ガス警報動作

<ガス警報の種類>

「ガス警報」は、検知したガス濃度が下表に示す警報設定値に達する、または超えたときに発報します。(自己保持動作)

ガス警報の種類は、第一警報(WARNING)、第二警報(ALARM)、第三警報(ALARM H)、TWA 警報、STEL 警報、OVER 警報(オーバースケール)、M OVER 警報(マイナスセンサ故障)です。

ガス警報の優先順位は、下記のとおりです。

第一警報 < 第二警報 < 第三警報 < M OVER 警報 < OVER 警報 < 積算警報点 < TWA 警報 < STEL 警報

<初期設定>

項目	測定ガス	可燃性ガス	O ₂	CO	H ₂ S
		HC または CH ₄			
測定レンジ		0-100 %LEL	0-25 %	0-500 ppm	0-30 ppm
サービスレンジ		-	25-40 %	500-2000 ppm	30-200 ppm
最小分解能		1 %LEL	0.1 %	1 ppm	0.1 ppm
警報設定値 (日本仕様)		第一警報:10 %LEL 第二警報:50 %LEL 第三警報:50 %LEL OVER 警報:100 %LEL MOVER 警報:-10%LEL	L:18.0 % LL:18.0 % H:25.0 % OVER 警報:40.0 % MOVER 警報:-1.0vol%	第一警報 :25 ppm 第二警報 :50 ppm 第三警報 :50 ppm TWA 警報 :25 ppm STEL 警報 :200 ppm OVER 警報 :2000 ppm MOVER 警報:-50ppm	第一警報 :1.0 ppm 第二警報 :10.0 ppm 第三警報 :10.0 ppm TWA 警報 :1.0 ppm STEL 警報 :5.0 ppm OVER 警報 :200.0ppm MOVER 警報:-10.0ppm
警報設定値 (海外仕様)		第一警報:10 %LEL 第二警報:25 %LEL 第三警報:50 %LEL OVER 警報:100 %LEL MOVER 警報:-10%LEL	L:19.5 % LL:18.0 % H:23.5 % OVER 警報:40.0 % MOVER 警報:-1.0vol%	第一警報 :25 ppm 第二警報 :50 ppm 第三警報 : 1200ppm TWA 警報 :25 ppm STEL 警報 :200 ppm OVER 警報:2000 ppm MOVER 警報:-50ppm	第一警報 :5.0 ppm 第二警報 :30.0 ppm 第三警報 :100.0 ppm TWA 警報 :1.0 ppm STEL 警報 :5.0 ppm OVER 警報:200.0 ppm MOVER 警報:-10.0ppm

注記

- 初期設定は上記表の通りです。
- 上記表に値が記載されている第一警報(WARNING)、第二警報(ALARM)、第三警報(ALARM H)、TWA 警報、STEL 警報は、設定値を変更できます。変更方法については「6-4-5. 警報点設定」(P.52) を参照してください。(「-」が記載されている場合は変更できません。)
- M OVER 警報(マイナスセンサ故障)とは、ゼロ点がマイナス側に潜った場合に発報します。

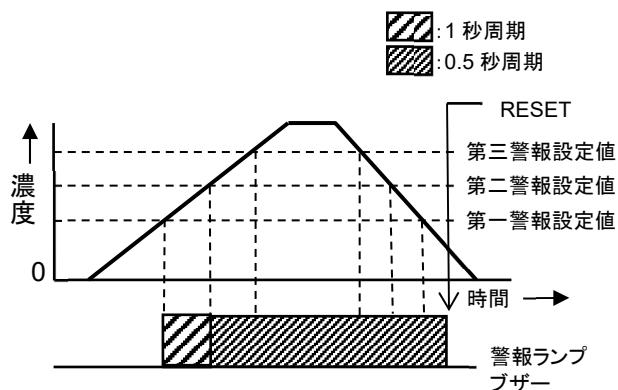
- アラームサイレンス機能が ON の場合、ガス警報発報中に MODE ボタンを押すことで、ブザー音のみ停止することができます。また、ブザー音停止後に新規のガス警報を発報した場合はブザー音の動作を再開します。本機能は、別売品のデータロガマネージメント SW-GX-3R により ON/OFF の設定が行えます。

＜ガス警報のブザー鳴動とランプ点滅動作＞

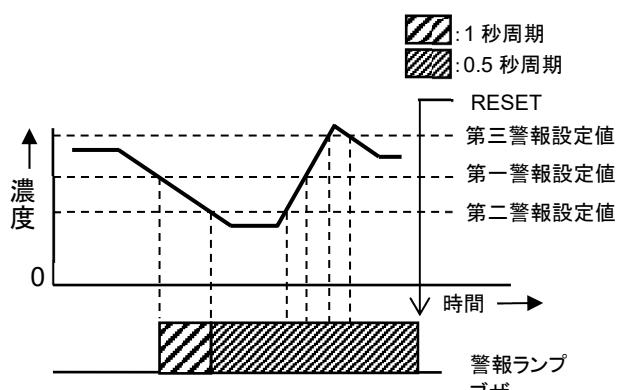
ガス警報の動作は、ブザーの鳴動、警報窓のランプ点滅、バイブレーション動作を2段階で知らせます。以下に種類ごとの動作を示します。

警報の種類	第一警報	第二警報	第三警報	TWA警報	STEL警報	OVER警報	M OVER警報
ブザー鳴動	約1秒周期の強弱鳴動を繰り返す。 「ピー ピー」	約0.5秒周期の強弱鳴動を繰り返す。 「ピーピー ピーピー」	約0.5秒周期の強弱鳴動を繰り返す。 「ピーピー ピーピー」	約1秒周期の強弱鳴動を繰り返す。 「ピー ピー」	約1秒周期の強弱鳴動を繰り返す。 「ピー ピー」	約0.5秒周期の強弱鳴動を繰り返す。 「ピーピー ピーピー」	約1秒周期の断続鳴動を繰り返す。 「ピーピー」
警報窓のランプ点滅	約1秒周期の点滅動作を繰り返す。	約0.5秒周期の点滅動作を繰り返す。	約0.5秒周期の点滅動作を繰り返す。	約1秒周期の点滅動作を繰り返す。	約1秒周期の点滅動作を繰り返す。	約0.5秒周期の点滅動作を繰り返す。	約1秒周期の点滅動作を繰り返す。
バイブルーション動作	警報時に振動						なし

酸素以外の場合 『警報パターン(H-HH-HHH)』

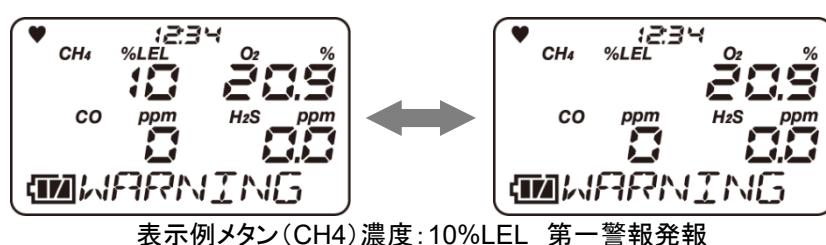


酸素の場合 『警報パターン(L-LL-H)』



＜ガス警報の表示動作＞

ガス警報では、画面下に警報の種類が表示され、当該ガス濃度表示が点滅します。検知範囲を超えると(オーバースケール)、画面下に「OVER」と表示され、ガス濃度表示部に「〇〇〇」が点滅します。



警報の種類	第一警報	第二警報	第三警報	TWA警報	STEL警報	OVER警報	M OVER警報
LCD表示	画面下に「WARNING」と表示され、ガス濃度値が点滅する。	画面下に「ALARM」と表示され、ガス濃度値が点滅する。	画面下に「ALARM H」と表示され、ガス濃度値が点滅する。	画面下に「TWA」と表示され、ガス濃度値が点滅する。	画面下に「STEL」と表示され、ガス濃度値が点滅する。	画面下に「OVER」、ガス濃度値に「〇〇〇」と表示され点滅する。	画面下に「M OVER」、ガス濃度値に「〇〇〇」と表示され点滅する。



警告

- ガス警報が発報された場合は大変危険です。お客様の判断により安全を確保した上で適切な処置を行ってください。

注記

- 警報時の動作は、ディスプレイモードの警報テストで確認することができます。ただし、警報テストでは、ガス濃度値は点滅しません。

4-2. 故障警報動作

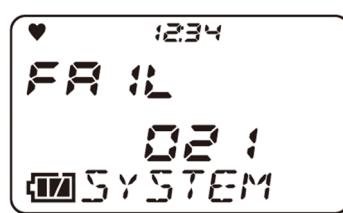
「故障警報」は、本器内での異常動作を検知して故障警報として発報します。(自己保持動作)

警報の種類は、システム異常、時計異常、電池電圧異常、センサ異常です。

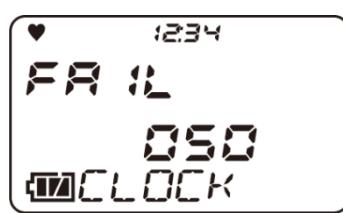
警報時の動作は、ブザー鳴動、警報窓のランプ点滅で知らせます。

- ブザー鳴動:約1秒周期の間欠鳴動を繰り返す。「ピーピー、ピーピー」
- 警報窓のランプ点滅:約1秒周期の点滅動作を繰り返す。

故障警報時の表示例を以下に示します。



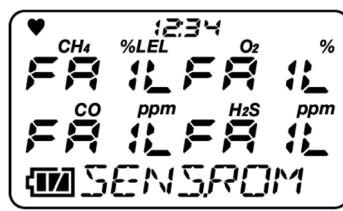
システム異常



時計異常



電池電圧異常



センサ異常

故障警報の発報時には、原因を究明し適切な対処を行ってください。

機器に問題があり、故障が頻発する場合は、速やかに弊社営業所にご連絡ください。

注記

- 故障内容(エラーメッセージ)の詳細については「トラブルシューティング」(P.78)を参照してください。

5

使用方法

5-1. ご使用にあたって

本器を初めてご使用になる方、および既にご使用経験のある方も、使用方法の注意事項を必ず守ってください。

これらの注意事項を守らない場合には、機器の故障が生じ、正常にガスを検知できない場合があります。

5-2. 始動準備

ガス検知を開始する前に、以下の内容を確認してください。

- ・電池残量が十分であること
- ・本器内のフィルタが汚れていないこと、目詰まりがないこと

注記

- ・外部機器を使用して本器の設定を変更した場合は、正しく設定が変更されたことを必ず確認してください。
 - ・本器の表示部には、傷防止のため出荷時に保護フィルムが添付されています。
 - ・ご使用になる前に、必ず保護フィルムを剥がしてください。この保護フィルムを貼付したままの製品では、防爆性能を担保できません。
-

5-2-1. リチウムイオン電池の充電

本器を初めて使用する場合や、リチウムイオン電池の電池残量が少ない場合は、以下の手順で、付属の充電器で充電してください。



危険

- ・充電は、安全な場所で、付属の充電器を使用して行ってください。
- ・充電は、0°C～+40°Cの環境下で行ってください。



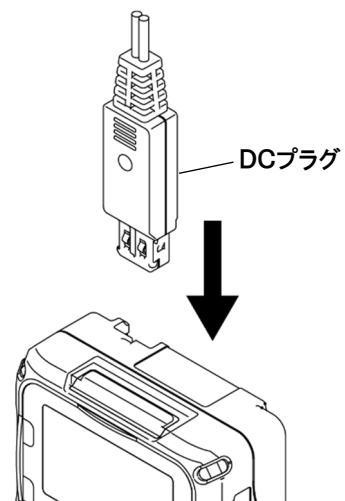
注意

- 充電は、必ず本器の電源を OFFにしてから行ってください。
- 充電を行いながら、本器を使用しないでください。正しい測定ができません。また、電池寿命が短くなり、充電池の劣化が早まります。
- 充電器は防水・防塵構造ではありません。本体が濡れている状態で充電をしないでください。
- 充電器は防爆仕様ではありません。
- 充電中に本体が熱くなることがあります、異常ではありません。
- 充電をすると本体温度が上がります。充電完了後、10分以上経ってから使用してください。本体が熱いままで使用すると、正しく測定できない場合があります。
- 満充電の状態では、再度充電を行っても、充電できません。
- 充電器を使用しない場合は、必ずコンセントから抜いてください。

<リチウムイオン電池を充電する>

1 充電器のDCプラグを本体の充電用接点に差し込む

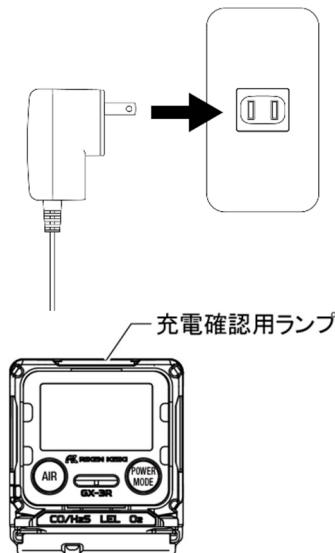
DCプラグのコードは、本体上面側から溝に合わせて差し込んでください。



2 充電器をコンセントに差し込む

充電器が接続されると、充電確認用ランプが緑色に点灯し、充電を開始すると橙色に点灯します。(最長約3時間で満充電)

充電が終了すると、充電確認用ランプが緑に点灯します。



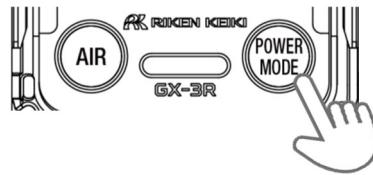
3 充電が終了したら、充電器をコンセントから抜く

5-3. 始動方法

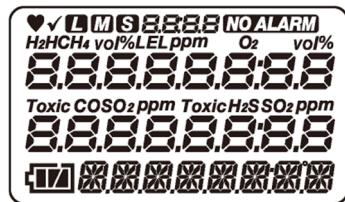
電源を入れると、日時や警報点などの各種設定を表示し、測定モードの画面を表示します。

電源を入れる

POWER ボタンをブザーが“ピッ”と鳴るまで
(3秒以上)押す
電源が入ります。



LCD 表示部が全点灯します。



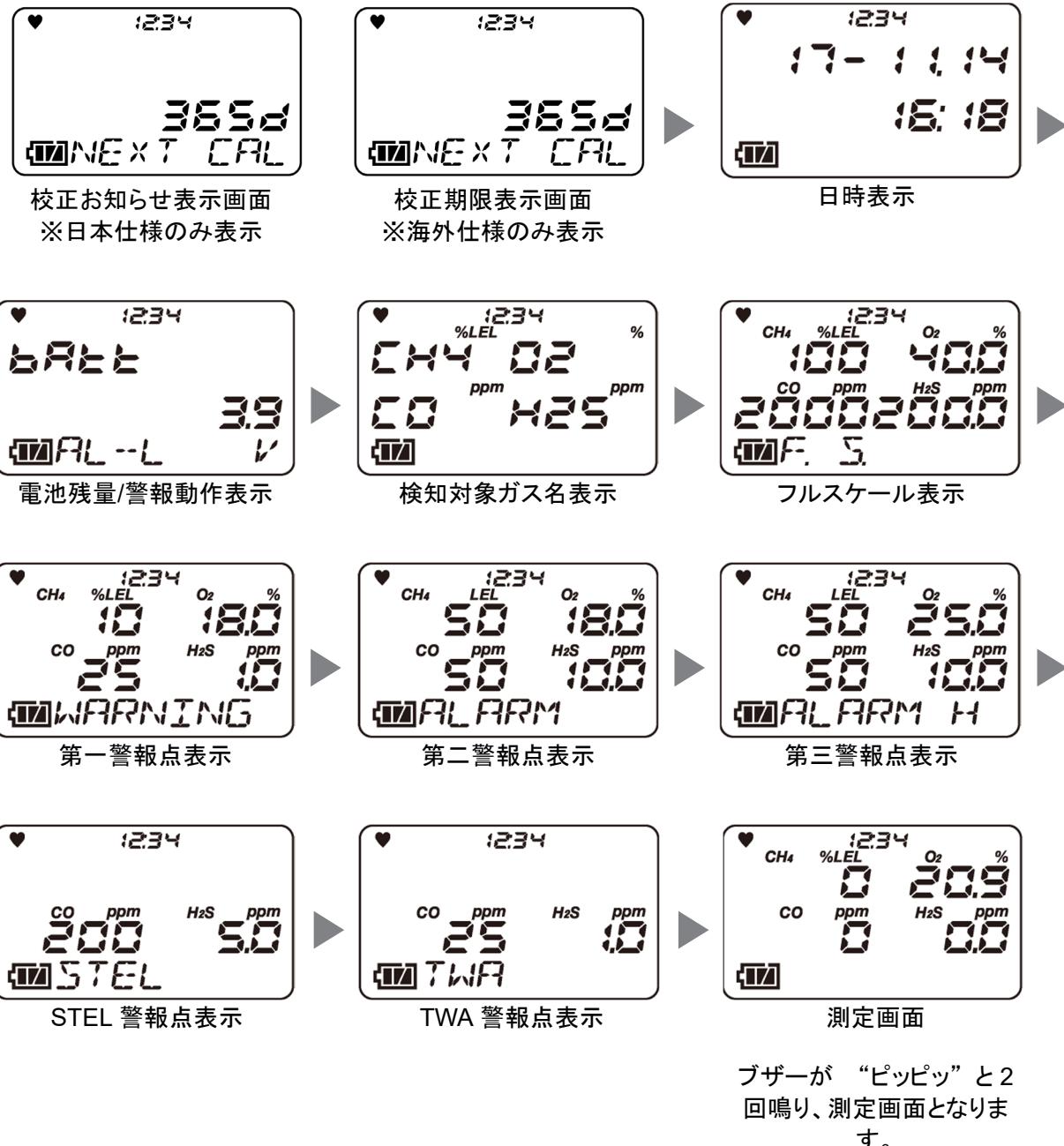
注記

- 電源を入れるとLCDおよびランプ、ブザーが動作し振動します。使用開始時、これらの動作が正常に行われることを確認してください。

電源投入から測定画面までの遷移

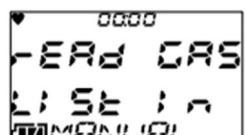
電源投入後、以下のようにLCD表示が自動的に切り替わり、測定画面になります。

<表示例 初期設定の場合> (約45秒)





注意

- ATEX/IECEx 仕様において、設定した校正期限を過ぎた場合、期限を過ぎていることを電源投入後にお知らせします。設定により動作が異なります。
AUTO 校正のシリンダー設定については、「7-2. ガス校正」(P.62)を参照してください。
また、校正を行う場合は、電源投入後、45 秒以上経過した後に行ってください。
CONFIRM : 故障警報を発報します。MODE ボタンを押すと AUTO 校正のシリンダー設定に進みます。
CANT USE: 故障警報を発報します。MODE ボタンを押すか、または 6 秒経過すると自動で AUTO 校正のシリンダー設定に進みます。
NO EFFECT: 期限切れを通知します。MODE ボタンを押すと AUTO 校正のシリンダー設定に進みます。6 秒間操作がない場合は自動で測定モードに進みます。
- 設定した BUMP 期限を過ぎた場合、期限を過ぎていることを電源投入後にお知らせします。設定により動作が異なります。
バンプテストのシリンダー設定については、「7-3. バンプテスト(BUMP TEST)」(P.70)を参照してください。
CONFIRM : 故障警報を発報します。MODE ボタンを押すとバンプテストのシリンダー設定に進みます。
CANT USE: 故障警報を発報します。MODE ボタンを押すか、または 6 秒経過すると自動で バンプテストのシリンダー設定に進みます。
NO EFFECT: 期限切れを通知します。MODE ボタンを押すとバンプテストのシリンダー設定に進みます。6 秒間操作がない場合は自動で測定モードに進みます。
- 可燃性ガスを検知対象ガスとするタイプの場合、電池残量/警報動作表示後に、右記画面が表示され、ブザーが鳴動し、ランプが点滅する場合があります。右記画面が表示された場合には MODE ボタンを押すか、または 5 秒経過すると自動で警報が解除されます。

- 右記画面は、シリコーン化物、ハロゲン化物などにより可燃性センサが被毒影響を受けることで表示されます。右記画面が表示された場合、読替機能が使用できるのは「6-2-2. 可燃性ガス読替の設定」の「読替ガス種一覧」にある「読替制限時読替可否」欄に「○」印が記載されているガス種のみです。引き続き、「×印」が記載されているガス種に対して読替機能を使用する場合には、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。
- 読み替えができないガスに設定されている場合、校正ガスに自動的に戻ります。
- センサに異常があった場合、測定画面になる直前に測定値に「FAIL」が表示され、センサ異常警報を発報します。このようなときは [MODE] ボタンを押すと、一時的にセンサ異常警報を解除できます。ただし、全てのセンサに異常があった場合は警報解除できません。警報解除後は、センサに異常のあったガス濃度表示部に「———」と表示され、センサに異常のあったガスの検知ができません。速やかに販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
- 始動後、ガス検知を行う前に「5-4. エア校正」(P.27)を実施してください。

注記

- 内蔵時計に異常があった場合、故障警報「FAIL CLOCK」を発報することがあります。このようなときは [MODE] ボタンを押してください。一時的に故障警報が解除され、時計の日時は異常のまま測定を開始します。

ランチブレーク

ランチブレーク設定が ON の場合、電源投入時に前回電源 OFF したときの TWA 値と PEAK 値を保持して測定を継続するか、または前回電源 OFF したときの値をリセットするか確認する画面が 5 秒間のカウントダウンとともに表示されます。[MODE] ボタンを押すと測定データを保持し、[AIR] ボタンを押すと測定データをリセットします。5 秒間操作がない場合、自動で測定データを保持します。

パンプ期限

パンプ期限切れ設定が ON の場合、電源投入時に最後にパンプテストした日から任意設定の日付までの残日数を表示します。パンプテスト期限切れ設定については「6-4-3. 校正期限設定」(P.44)を参照してください。

校正お知らせ表示

日本仕様

最後に校正した日から 1 年(365 日)後の日付およびそれまでの残日数が表示されます。最後に校正した日から 1 年以上経過している場合は、ブザーでお知らせします。ブザーは、[AIR] ボタンを押して解除することができます。

海外仕様

最後に校正した日から任意設定の日付までの残日数を表示します。校正期限の設定については「6-4-3. 校正期限設定」(P.44)を参照してください。

日時

年月日と時刻が表示されます。日付／時刻設定は、「6-4. ユーザーモードの設定」(P.44)で設定できます。

本器に IrDA 通信相手を近づけると、通信モードに遷移します。また通信相手がいなくても、[AIR]+[MODE] ボタンの同時押しで、通信モードに遷移します。

電池残量/警報動作

画面上に電池残量(電圧)および警報動作設定(AL—L<自己保持>)を表示します。

本器に IrDA 通信相手を近づけると、通信モードに遷移します。また通信相手がいなくても、[AIR]+[MODE] ボタンの同時押しで、通信モードに遷移します。

検知対象ガス名

検知対象ガス名を表示します。また可燃性ガス読み替え設定中の場合、画面下部分に読み替え中のガス名が表示されます。

フルスケール

検知対象ガスのフルスケール値を表示します。IEC または ISO の LEL 値を設定している場合、フルスケール表示部分に IEC または ISO と表示します。

第二警報点

検知対象ガスの 2 段階目の警報設定値を表示します。

第三警報点

検知対象ガスの 3 段階目の警報設定値を表示します。

STEL 警報点(可燃性ガスと酸素以外を検知対象とするタイプの場合のみ TWA 及び STEL が表示)

検知対象ガスの STEL の警報設定値を表示します。STEL 値は、使用者が 15 分間連続被曝した場合で、さらに毎日の被曝が TWA 値以下であれば健康上使用者に悪影響を及ぼさない有害物質の濃度です。

CO および H₂S が検知対象ガスに含まれないタイプの機器では表示されません。

TWA 警報点(可燃性ガスと酸素以外を検知対象とするタイプの場合のみ TWA 及び STEL が表示されます)

検知対象ガスの TWA の警報設定値を表示します。TWA 値は、1 日 8 時間、または週 40 時間の平常作業において反復曝露しても、ほとんど全ての使用者が健康上悪影響をこうむることがないと考えられる有害物質の時間荷重平均値のことです。

5-4. エア校正

エア校正は、ガス濃度を正確に測定するために必要なゼロ調整です。



警告

- エア校正を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスや干渉ガスなどが存在する状態で行うと、正しいエア校正が行えず、実際にガスが漏洩した場合に危険です。



注意

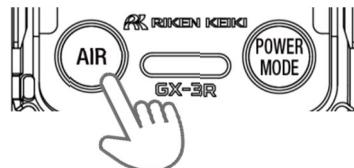
- 始動後、ガス検知を行う前にエア校正を実施してください。
- エア校正は、使用環境に近い状態の圧力、温湿度条件下で、かつ新鮮な大気中で行ってください。
- エア校正は、指示が安定してから行ってください。
- 保管場所と使用場所の温度が 15°C以上急変するような場合は、電源を入れた状態で使用場所と同様の環境下で 10 分程度馴染ませ、新鮮な大気中でエア校正を行ってから使用してください。

注記

- ロングライフバッテリー設定 ON の状態で可燃性ガスの読替機能を使用する場合、原理上、電源投入後一時的に指示値が上昇し、警報設定値によってはガス警報を発報する可能性があります。電源投入後 5 分程度経過した後、ゼロ校正を実施した上でご使用ください。
特にトルエン、キシレン、n-ノナン、メチルイソブチルケトンは指示が比較的に上昇する傾向にあるため、ロングライフバッテリー設定 OFF の状態で使用することを推奨します。

エア校正手順

1 測定モード画面で、AIR ボタンを長押しする



エア校正画面が表示されます。

右記の画面が表示されている間は、AIR ボタンを押し続けてください。

画面が表示される前または画面が表示されている間に指を離すと、エア校正は行われません。



2 右記の画面が表示されたら、AIR ボタンを離す

エア校正が正常に行われると、自動で測定モード画面に戻ります。



注記

- エア校正に失敗した場合、不良となったセンサの濃度表示部に「FAIL」と表示されます。MODE ボタンを押して故障警報(校正不良)を解除してください。警報が解除されると、校正前の値を表示します。

5-5. 検知する



危險

- マンホールの中や密閉された場所を測定する場合には、絶対にマンホールの入り口に身を乗りだしたり、中をのぞき込んだりしないでください。酸素欠乏空気、その他のガスが吹き出す可能性があり危険です。



警告

- エア校正を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスや干渉ガスなどが存在する状態で行うと、正しい校正が行えず、実際にガスが漏洩した場合に危険です。
 - ガス警報が発報された場合は大変危険です。お客様の判断により適切な処置を行ってください。
 - 電池電圧が低下すると、ガス検知を行えなくなります。使用中に電池電圧低下警報が発報された場合は、電源を切り、安全な場所で速やかに充電をしてください。
 - ブザー放音口をふさがないでください。警報音が聞こえなくなります。

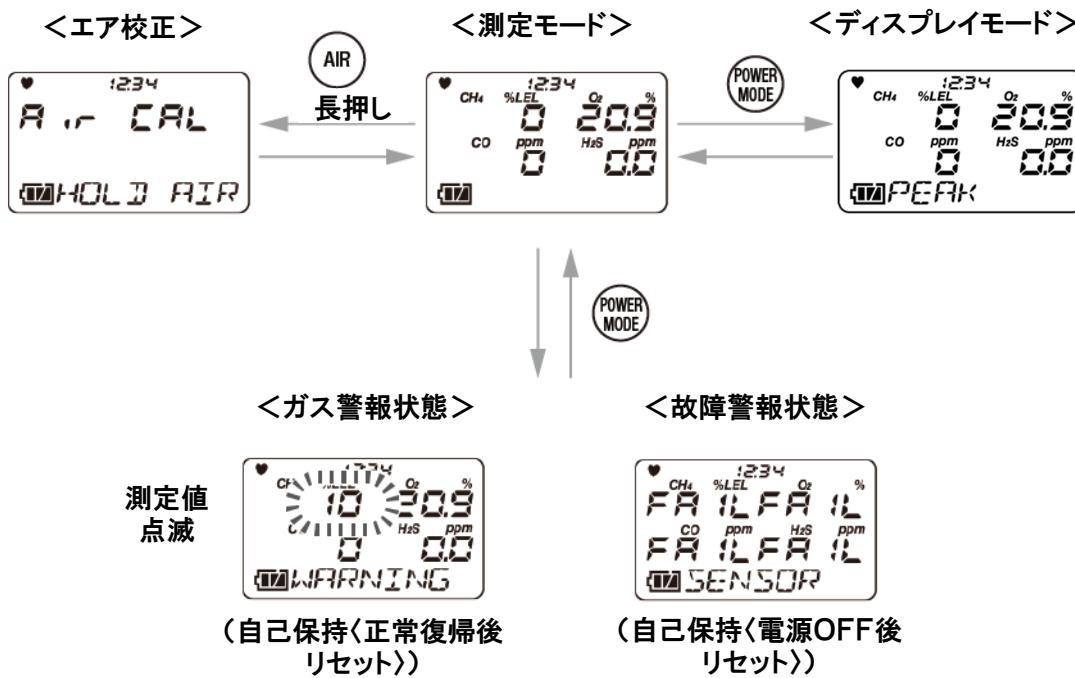


注意

- ガス検知を行う前に、各種設定を確認した上でご使用ください。

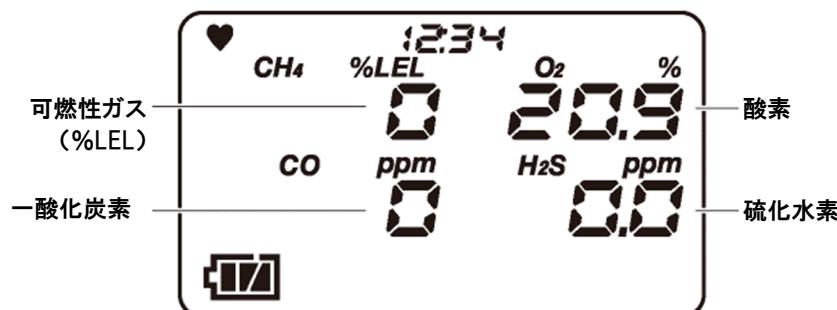
5-5-1. 基本動作フロー

電源投入後、測定モードの画面に進みます。



5-5-2. 測定モード

測定モードで、LCD表示部の数値を読み取ってください。



表示例



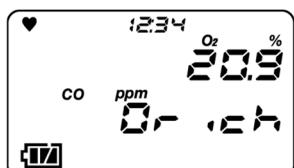
注意

- シリコーン化合物、ハロゲン化物、高濃度の硫化物、高濃度の溶剤ガスなどが存在する環境にて可燃性ガスセンサを使用した場合、センサの寿命が短くなったり、センサの可燃性ガスに対する感度が低下し、正確な指示を得られなかつたりする恐れがありますので、注意してください。やむを得ず使用する場合は使用時間を極力短くし、使用後は新鮮な大気中に放置し、指示が戻ったことを確認し、指示がふらつくなどの異常がないことを確認してください。
- 本器の可燃性ガスセンサ<%LEL>が正確なガス検知および濃度表示をするには、ある一定以上の酸素濃度が必要です。
- 本器に急激な圧力変化を与えないでください。酸素の指示値が一時的に変化して正確な測定ができません。
- 酸素センサの校正および調整時は、窒素以外のバランスガスを使用しないでください。酸素の指示誤差が大きくなり、正確な測定ができません。
- 吸着性の高いガスと接触してしまった場合には、新鮮な大気中に放置して、指示値がゼロに戻ったことを確認してから使用してください。
- 硫化水素センサ(H₂S)は、急激な温度変化に対して一時的な変動を示す可能性があります。環境雰囲気下で十分なじませてから使用してください。

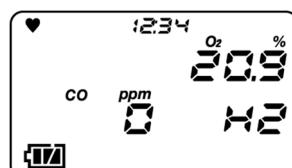
注記

- 可燃性ガス読み替え設定中の場合、画面下部分に読み替え中のガス名が表示されます。
- 低温の環境下では、電池の性能上、使用時間が短くなります。
- 低温時は、LCD表示部の応答が遅くなる場合があります。
- 100%LEL 以上の高い濃度の可燃性ガスと接触した場合は、フィルタ内に吸着したガスが残っている恐れがあります。高濃度の可燃性ガスと接触した後には必ず新鮮な大気中に放置して、指示値がゼロ付近になるまでエアクリーニングを行い、吸着ガスを除去してください。完全にクリーニングされる前にエア校正を行うと、正確な調整とならず、測定に影響を及ぼす可能性があります。
また 100%LEL を検知した後はロッキングオーバーとなり、酸素が下がるか MODE ボタンを押さないと復旧しません。
- 一酸化炭素センサ(CO)および硫化水素センサ(H₂S)は低温および高温時にゼロ点が変動する可能性があります。その場合は、環境雰囲気下でエア校正を行ってください。

- 一酸化炭素センサ(ESR-A1CP)は水素による干渉を低減する補正機能を搭載したセンサです。この機能は最大 2000 ppm の水素に対して機能します。ただし、40°Cを超える環境で長時間(15 分以上)使用した場合、水素干渉の影響を受け、実際の一酸化炭素濃度より高く指示する可能性があります。
- 一酸化炭素センサ(ESR-A1CP)は 2000 ppm 以上の濃度の水素を検知した場合、濃度表示部分に[H2]と[rich]を交互に表示します。[H2]/[rich]表示をした場合、測定は継続できますが、水素干渉の影響を大きく受けているため、一酸化炭素濃度の指示値に誤差が発生します。

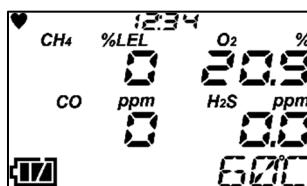
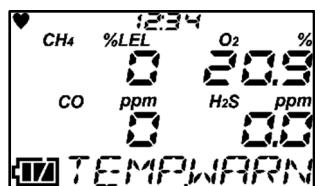


濃度表示部: RICH



濃度表示部: H2

- 一酸化炭素センサは測定レンジを超える高濃度のガスに接触した場合、一時的に感度が低くなる可能性があります。高濃度のガスに接触した後には必ず新鮮な大気に放置してエアクリーニングを行ってください。
- 硫化水素センサ(H2S)は測定レンジを超える高濃度ガスに接触した場合、一時的に感度が低くなる可能性があります。高濃度のガスに接触した後には必ず新鮮な大気に放置してエアクリーニングを行ってください。
- 使用温度範囲外で 20 分以上測定している場合、温度範囲異常が発報します。温度範囲異常が発報した場合、使用温度範囲内で 5 分以上放置するか本体の電源を OFF にしてください。



5-6. 電源を切る

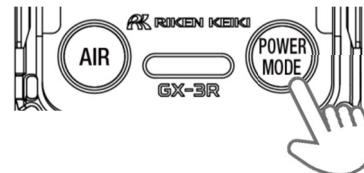


注意

- 測定終了後、濃度表示がゼロ(酸素濃度表示の場合、20.9%)に戻っていない場合は、新鮮な大気中に放置して表示がゼロに戻ってから電源を切ってください。

POWER ボタンを押し続ける

電源を切るときは、安全な場所で、表示がゼロ(0、酸素は20.9%)に戻ってから、**POWER** ボタンを長押しします。



ブザーが“ピッピッピッ”と3回鳴り、表示部に「TURN OFF」と表示され、電源が切れます。

TURN OFF

電源オフ表示

注記

- 電源を切る際は、表示が消えるまで押し続けてください。



注意

- 機器が汚れている場合は、ウエスや水で濡らして固く絞った布などで拭き取ってください。
- 機器の汚れを拭き取る際は、アルコールやベンジンなどの有機溶剤や市販のクリーナーを使用しないでください。

6

設定方法

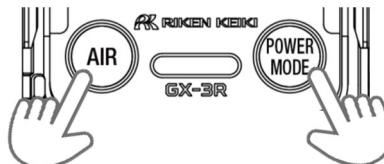
6-1. ディスプレイモード

ディスプレイモードでは、各種表示の確認と変更などを行うことができます。また、変更した設定は記録されます。

6-1-1. ディスプレイモードを表示する

測定モードの画面で、**MODE** ボタンを押す

MODE ボタンを押すたびに、各種画面が順番に表示されます。



設定を変更するときには、**AIR** ボタンを押す

設定画面が表示されます。

各種設定終了後は、**MODE** ボタンを押す

設定を記録し、前の画面に戻ります。

測定モードの画面に戻るときは、ディスプレイモードで

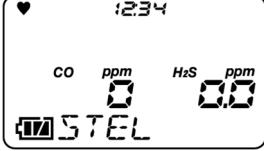
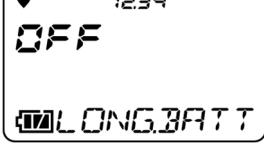
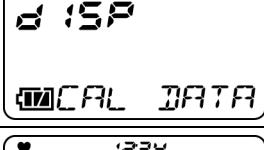
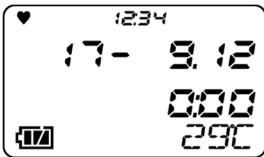
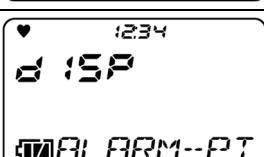
MODE ボタンを何度も押す

注記

- 何も操作されない状態が約 20 秒間続くと、測定画面に戻ります。
- 警報設定値の表示中に、**AIR** ボタンと **MODE** ボタンを同時に押すと、警報テストを行うことができます。
- ディスプレイモードの表示中に、**AIR** ボタンと **MODE** ボタンを同時に長押しすると、測定モードに戻ります。
- 設定を変更中に、中止するときは、**AIR** ボタンと **MODE** ボタンを同時に長押ししてください。ディスプレイモードに戻ります。

6-1-2. ディスプレイモードの表示内容

画面表記 (設定項目)	表示内容	LCD 表示	参照ページ
PEAK 表示 (PEAK/PEAK リセット)	電源を入れてから現在までの間で検知された、ガスの最高濃度値(酸素の場合は最低濃度)を表示します。		AIR ボタンを長押しして PEAK 値クリア画面へ (P.34)

画面表記 (設定項目)	表示内容	LCD 表示	参照ページ
STEL 表示 (STEL) ※CO、H2S のみ表示	電源を入れてから現在までの STEL 値を表示します。 STEL 値とは 60 秒間の測定値の平均値データ 15 個分の合計を 15 で割った値です。 数値は 60 秒ごとに更新します。		-----
TWA 表示 (TWA) ※CO、H2S のみ表示	電源を入れてから現在までの TWA 値を表示します。 TWA 値とは 60 秒間の測定値の平均値の積算を 480 で割った値です。 数値は 60 秒ごとに更新します。		-----
可燃性ガス読替設定 (HC GAS) ※可燃性ガスを検知対象とする仕様のみ表示	本器にあらかじめ登録されているガスリストから、読替えるガス種を選択します。		[AIR] ボタンを押して設定画面へ (P.35)
ロングライフバッテリー設定 (LONG.BATT) ※可燃性ガスを検知対象とする仕様のみ表示	ロングライフバッテリーの ON/OFF を行います。		[AIR] ボタンを押して設定画面へ (P.37)
校正記録表示 (CAL DATA) ※ATEX/IECEx のみ表示	校正したガス種と日付を表示します。		[AIR] ボタンを押して表示画面へ (P.38)
BUMP 記録表示 (BUMP DATA)	バンプテストのガス種と日付を表示します。		[AIR] ボタンを押して表示画面へ (P.39)
日時温度表示 (DATE)	日付と時刻、温度を表示します。		-----
警報設定値表示 (ALARM POINTS)	各種警報設定値を表示します。		[AIR] ボタンを押して確認画面へ (P.40)

注記

- PEAK 表示と TWA 表示は、ランチブレーク機能を ON にすると、前回の電源を OFF したときの測定値を引き継いで表示されます。
- 可燃性ガス読替設定(HC GAS)は、校正ガス種が CH₄ と i-C₄H₁₀ 以外の場合には、表示されません。
- バンプ記録表示は、ユーザー モードにてバンプ期限切れ表示の ON/OFF を ON にすると表示されます。
- 校正記録表示は、ユーザー モードにて校正期限切れ表示の ON/OFF を ON にすると表示されます。
- 日時温度表示の項目で表示される温度は機器の内部温度を表示しており、実際の使用環境温度とは異なります。

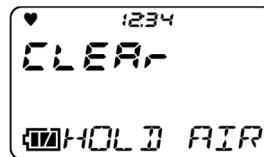
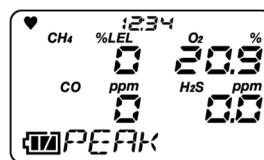
6-2. ディスプレイモードの設定

ディスプレイモードは、測定画面から表示を切り替えて設定内容の確認や変更ができます。

6-2-1. PEAK 値表示のクリア

PEAK 値(電源を入れてから現在までの間の最高濃度の測定値、酸素では最低濃度)をクリアします。

- 測定画面で、**MODE** ボタンを押し、**PEAK** 画面を表示させる
- AIR** ボタンを長押しする



- 画面に「RELEASE」が表示されたら、**AIR** ボタンから指を離す



PEAK 値がクリアされると、「END」が表示され手順 1 の画面に戻ります。

6-2-2. 可燃性ガス読替の設定

可燃性ガスの測定を、本器にあらかじめ登録してあるガスに読み替え、濃度表示することができます。変更できる可燃性ガスは以下になります。

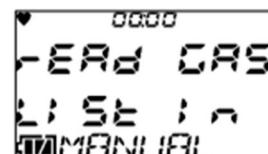
<読替ガス種一覧>

読替ガス名	ガス名 表示	ガス種読替可否		読替制限時 読替可否	JG 仕様
		CH4	i-C4H10		
メタン	CH4	-	×	○	×
イソブタン	i-C4H10	○	-	○	○
水素	H2	○	○	○	○
メタノール	CH3OH	○	○	×	×
アセチレン	C2H2	○	○	○	○
エチレン	C2H4	○	○	○	○
エタン	C2H6	○	×	○	○
エタノール	C2H5OH	○	○	×	×
プロピレン	C3H6	○	○	○	○
アセトン	C3H6O	○	○	×	×
プロパン	C3H8	○	×	○	○
ブタジエン	C4H6	○	○	○	○
シクロヘキサン	C5H10	○	○	○	○
ベンゼン	C6H6	○	○	×	×
n-ヘキサン	n-C6H14	○	○	○	×
トルエン	C7H8	○	○	×	×
n-ヘプタン	n-C7H16	○	○	○	×
キシレン	C8H10	○	○	×	×
n-ノナン	n-C9H20	○	○	×	×
酢酸エチル	EtAc	○	○	×	×
イソプロピルアルコール	IPA	○	○	×	○
メチルエチルケトン	MEK	○	○	×	×
メタクリル酸メチル	MMA	○	○	×	×
ジメチルエーテル	DME	○	○	×	○
メチルイソブチルケトン	MIBK	○	○	×	×
テトラヒドロフラン	THF	○	○	×	×
n-ペンタン	n-C5H12	○	○	○	○



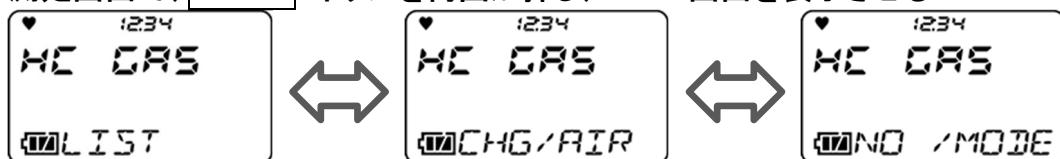
注意

- 可燃性ガスを検知対象ガスとするタイプの場合、電源 ON 時またはガス校正後に、右記画面が表示され、ブザーが鳴動し、ランプが点滅する場合があります。右記画面が表示された場合には MODE ボタンを押すか、または 5 秒経過すると自動で警報が解除されます。
 - 右記画面は、シリコーン化物、ハロゲン化物などにより可燃性センサが被毒影響を受けることで表示されます。右記画面が表示された場合、読替機能が使用できるのは「6-2-2. 可燃性ガス読替の設定」の「読替ガス種一覧」にある「読替制限時読替可否」欄に「○」印が記載されているガス種のみです。引き続き、「×」印が記載されているガス種に対して読替機能を使用する場合には、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。
 - JG 型式承認仕様として可燃性ガス読替機能を使用する場合、上記表の「JG 仕様」欄に「○」印が記載されているガス種を選択してください。「×」印が記載されているガス種を選択すると JG 型式承認の要求を満たさなくなります。
- また、右記画面が表示された場合は上記注意事項に従ってください。



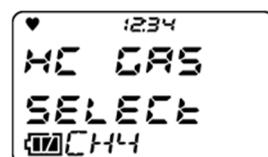
注記

- 可燃性ガス読替の設定は、CH₄かi-C₄H₁₀のときに表示されます。
- ユーザーモードの「ディスプレイモード項目表示のON/OFF」がOFFの場合には表示されません。
- 設定を変更中に、中止するときは、[AIR]ボタンと[MODE]ボタンを同時に長押ししてください。ディスプレイモードに戻ります。
- 仕様一覧に記載の警報精度および警報遅れ時間は、校正ガスにのみ適用されます。
- 読み替えによる濃度表示は目安です。
- 読み替えを行う場合、本器の指示精度を満たさなくなります。
- 本器の可燃性ガスセンサは、仕様により読み替えできないガス種があります。「1-2. 使用目的」にてガスモニターの仕様を確認の上、「6-2-2. 可燃性ガス読替の設定」の「読替ガス種一覧」にて読み替え可否を確認してください。読替ガスを選択している際にも、その他の可燃性ガスが使用環境に存在している場合には、指示値に影響します。ただし、読替ガスに水素(H₂)を選択した場合、「読替ガス種一覧」の「読替制限時読替可否」欄に「×」と記載されたガス種については、使用環境に存在していても指示値に影響しません。
- ロングライフバッテリー設定ONの状態で可燃性ガスの読替機能を使用する場合、原理上、電源投入後一時的に指示値が上昇し、警報設定値によってはガス警報を発報する可能性があります。電源投入後5分程度経過した後、ゼロ校正を実施した上でご使用ください。
特にトルエン、キシレン、n-ノナン、メチルイソブチルケトンは指示が比較的に上昇する傾向にあるため、ロングライフバッテリー設定OFFの状態で使用することを推奨します。

1 測定画面で、[MODE]ボタンを何回か押し、LIST画面を表示させる**2 [AIR]ボタンを何回か押し、変更する可燃性ガスを表示させる**

[AIR]ボタンを押すたびに可燃性ガスが切り替わります。

初期設定は可燃性ガスセンサの校正ガスです。

**3 画面に変更する可燃性ガスが表示されたら、[MODE]ボタンを押す**

「END」が表示され手順1の画面に戻ります。

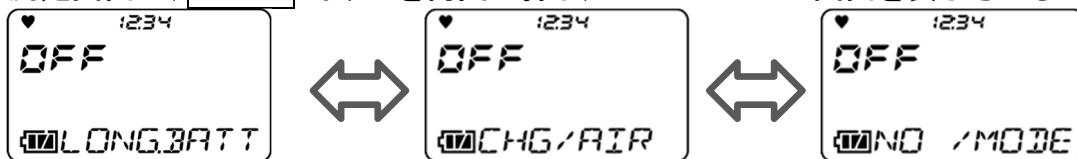
6-2-3. ロングライフバッテリーの設定

ロングライフバッテリーの ON/OFF を切り替えます。初期設定は、「OFF」です。
ON にすると、可燃性ガスの濃度更新が 5 秒に 1 回から 15 秒に 1 回に変更されます。

注記

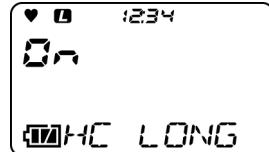
- 電源を切っても、設定は保持されます。
 - ディスプレイモード設定項目表示が OFF の場合は、表示されません。
 - ロングライフバッテリーを ON にすると、可燃性ガスセンサのマイナスセンサ故障が出なくなります。
 - ロングライフバッテリーを ON にすると、画面上に「L」マークが点灯します。
 - ロングライフバッテリー設定 ON の状態で可燃性ガスの読替機能を使用する場合、原理上、電源投入後一時的に指示値が上昇し、警報設定値によってはガス警報を発報する可能性があります。電源投入後 5 分程度経過した後、ゼロ校正を実施した上でご使用ください。
- 特にトルエン、キシレン、n-ノナン、メチルイソブチルケトンは指示が比較的に上昇する傾向にあるため、ロングライフバッテリー設定 OFF の状態で使用することを推奨します。

1 測定画面で、**MODE** ボタンを何回か押し、**LONG.BATT** 画面を表示させる



2 **AIR** ボタンを押し、「ON」または「OFF」を選択する

初期設定は「OFF」です。



3 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され手順 1 の画面に戻ります。

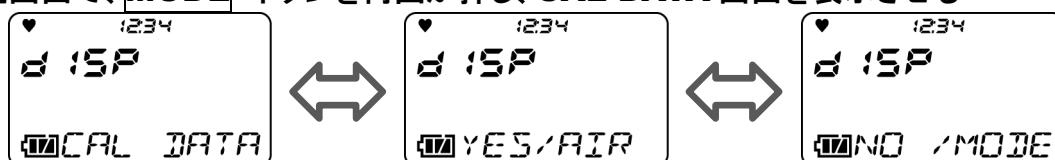
6-2-4. 校正記録の表示

ガス校正を実施した日付を表示します。

注記

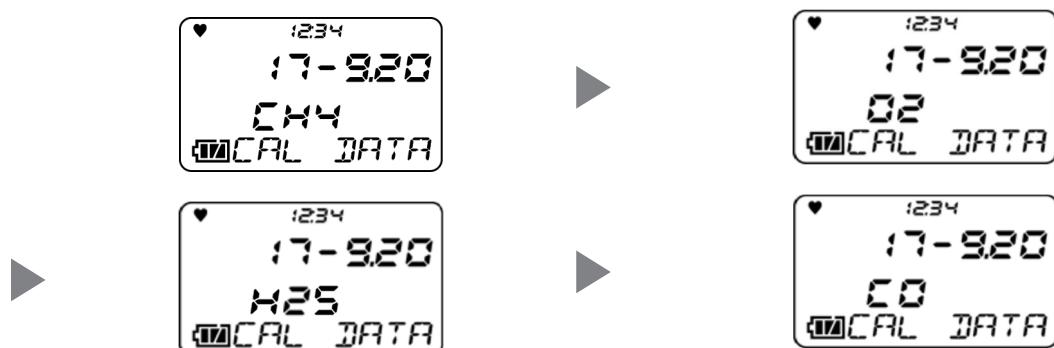
- ユーザー モードにて校正期限機能設定が OFF の場合には表示されません。ATEX / IECEx 仕様のみ表示します。

- 測定画面で、**MODE** ボタンを何回か押し、**CAL DATA** 画面を表示させる



- AIR ボタンを押し、「YES」または「NO」を選択する

AIR ボタンを押すタブに「CH4」→「O2」→「H2S」→「CO」の順に表示されます



- MODE** ボタンを押す

「END」が表示され手順 1 の画面に戻ります。

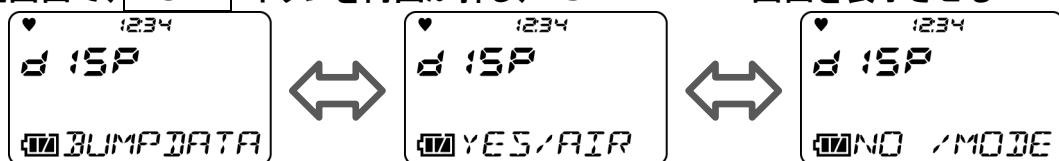
6-2-5. バンプ記録の表示

バンプテストを実施した日付を表示します。

注記

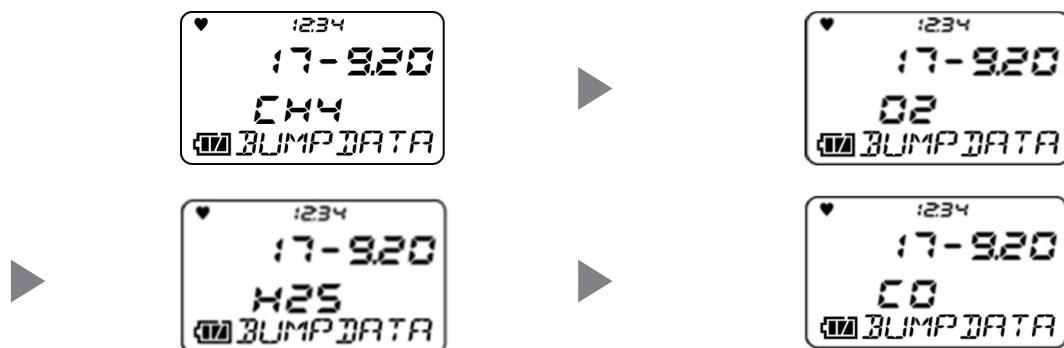
- ユーザー モードにてバンプ期限設定が OFF の場合には表示されません。
- ガス校正を行った場合、自動でバンプ記録も更新されます。

1 測定画面で、**MODE** ボタンを何回か押し、**BUMP DATA** 画面を表示させる



2 **AIR** ボタンを押し、「YES」または「NO」を選択する

AIR ボタンを押すたびに、「CH₄」→「O₂」→「H₂S」→「CO」→「CO₂」→……の順に表示されます。



3 **MODE** ボタンを押す

手順 1 の画面に戻ります。

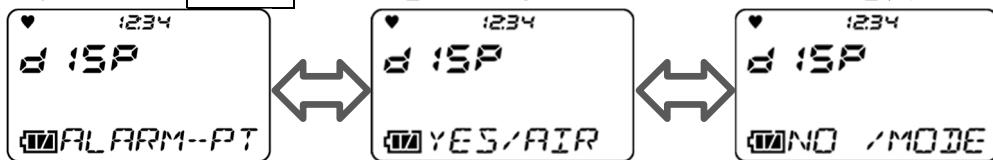
6-2-6. 警報設定値の表示

警報設定値の表示および LED・ブザー・バイブレーションの動作テストをすることができます。

注記

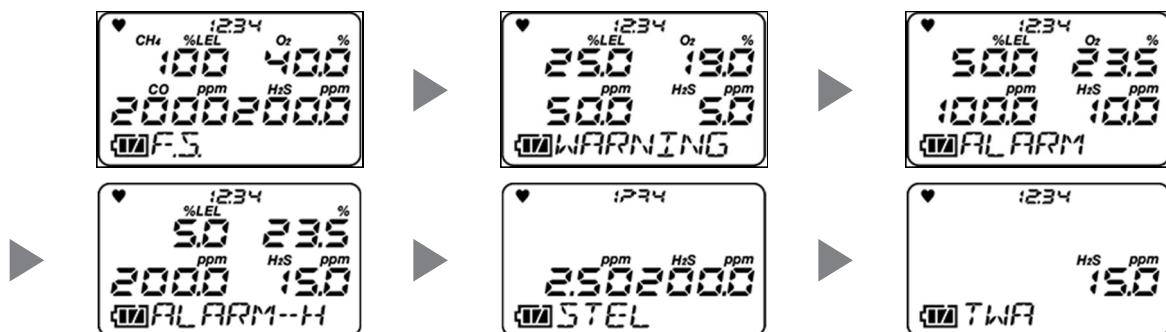
- 可燃性ガスと酸素以外を検知対象とするタイプの場合のみ TWA 及び STEL が表示されます。

1 測定画面で、**MODE** ボタンを何回か押し、**ALARM-PT** 画面を表示させる



2 **AIR** ボタンを押す

AIR ボタンを押すたびに、「F.S.」(FULL SCALE)→「WARNING」→「ALARM」→「ALARM H」→「STEL」→「TWA」→「F.S.」(FULL SCALE)→……の順に表示されます。



AIR ボタンと **MODE** ボタンを同時に押すと、当該警報の作動テストができます。警報を解除するには、いずれかのボタンを押します。

3 **MODE** ボタンを押す

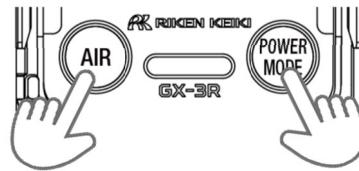
手順 1 の画面に戻ります。

6-3. ユーザーモード

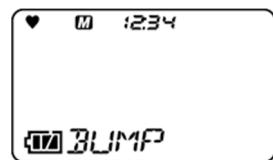
ユーザー モードでは、日時や警報点の設定などを行うことができます。

6-3-1. ユーザーモードを表示する

- 電源を切った状態で、**AIR** ボタンと **POWER** ボタンを押す



- 『ピッ』と鳴ったら、ボタンから指を離す
電源が入り、ユーザー モードメニューが表示されます。



- AIR** ボタンで設定する項目を選択し、**MODE** ボタンで設定画面に移動する

- 設定終了後は、ユーザー モードメニューで **AIR** ボタンを何度か押し、「START」を選択して **MODE** ボタンを押す

電源を入れたときと同様の動作をして、測定画面に進みます。

注記

- 各種設定後はユーザー モードメニューに戻ります。設定の途中で戻るときは、**AIR** ボタンと **MODE** ボタンを同時に長押ししてください。
- ユーザー モードパスワード設定が ON の場合、パスワード画面が表示されます。パスワードを初期設定する場合には、「6-4-12. パスワード設定」(P.58)に設定方法を記載しています。

6-3-2. ユーザーモードの設定項目

画面表記(設定項目)	LCD 表示	参照ページ
パンプテスト(BUMP)		P.44
ガス校正(GAS CAL)		P.44
校正期限設定(CAL SET) ※ATEX/IECEx 仕様のみ表示されます。		P.44
パンプテストの設定(BUMP SET)		P.47
警報点設定(ALARM-PT)		P.52
ランチブレークの ON/OFF (LUNCH)		P.54
コンファームーションビープ設定(BEEP)		P.54
LCD 点灯時間設定(BL TIME)		P.56
キー操作音の ON/OFF(KEY TONE)		P.57
ディスプレイモード項目表示の ON/OFF(DISP SET)		P.57

画面表記(設定項目)	LCD 表示	参照ページ
日時設定(DATE)		P.58
パスワード設定(PASSWORD)		P.58
ROM/SUM の表示(ROM/SUM)		P.59
測定開始へ(START)		

6-4. ユーザーモードの設定

ユーザー モードは、使用するユーザーに使いやすいうように設定を変更できます。

6-4-1. バンプテスト

本器はバンプテスト(機能検査)を行う機能を備えています。ここでは「バンプテスト(BUMP TEST)の実施」、「バンプテスト(BUMP TEST)からの測定開始画面への切り替え」を行うことが出来ます。

バンプテスト成功後、測定開始画面へ自動で移ります。

※シリンダー設定が複数設定されている場合、測定開始画面には自動で移りません。

バンプテストの操作手順については、「7-3. バンプテスト(BUMP TEST)」(P.70)を参照してください。

注記

- 設定を終えるときは、**AIR** ボタンを押して「ESCAPE」を選択し、**MODE** ボタンを押してください。ユーザー モードメニューに戻ります。

6-4-2. ガス校正

本器の GAS CAL モードでは、エア校正に加えて、あらかじめ設定したガス濃度値で校正を行う AUTO CAL を実施できます。

ガス感度校正を行うには専用の器具と校正用ガスが必要になりますので、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

ガス校正成功後、測定開始画面へ自動で移ります。

※シリンダー設定が複数設定されている場合、測定開始画面には自動で移りません。

ガス校正の操作手順については、「7-2. ガス校正」(P.62)を参照してください。

注記

- 設定を終えるときは、**AIR** ボタンを押して「ESCAPE」を選択し、**MODE** ボタンを押してください。ユーザー モードメニューに戻ります。

6-4-3. 校正期限設定

ここでは、「校正期限の ON/OFF」、「校正期限日数設定」、「校正期限切れ後の動作設定」を行うことができます。

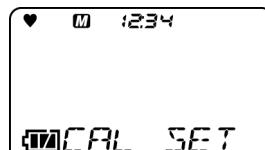
※ATEX/IECEx 仕様のみ表示されます。

注記

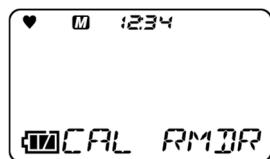
- 設定を終えるときは、**AIR** ボタンを押して「ESCAPE」を選択し、**MODE** ボタンを押してください。ユーザー モードメニューに戻ります。

<校正期限設定の設定メニュー>

- ユーザー モードメニューで**AIR** ボタンを押して
「CAL SET」を選択し、**MODE** ボタンを押す
校正期限設定のメニュー画面が表示されます。



- 2** **AIR** ボタンを押して設定を選択し、**MODE** ボタンを押す

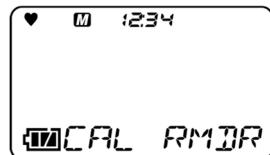


設定項目	LCD 表示	参照ページ
CAL RMDR		<校正期限の ON/OFF >P.45
CAL INT		<校正期限日数設定 >P.46
CAL EXPD		<校正期限切れ後の動作設定 >P.46
ESCAPE		

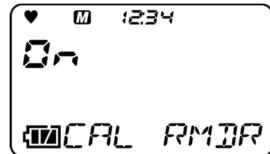
<校正期限の ON/OFF >

校正期限の ON/OFF を選択できます。

- 1** **AIR** ボタンを押して「CAL RMDR」を選択し、**MODE** ボタンを押す
校正期限の ON/OFF 選択が表示されます。



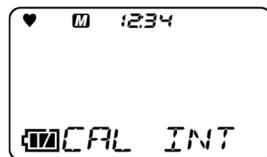
- 2** **AIR** ボタンを押して校正期限の ON/OFF を選択し、**MODE** ボタンを押す
AIR ボタンを押すと、校正期限の ON/OFF を選択できます。初期設定は初期設定「ON」です。
※ATEX/IECEx 仕様のみ
- 3** **MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、校正期限設定メニューに戻ります。



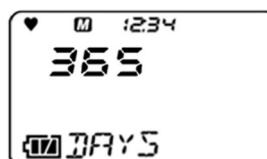
<校正期限日数設定>

校正期限の日数を選択できます。

- AIR** ボタンを押して「CAL INT」を選択し、
MODE ボタンを押す



- AIR** ボタンを押して校正期限日数を選択する
AIR ボタンを押すと、校正期限の日数を 1 ~ 1000 日から選択できます。初期設定は「365 日」です。

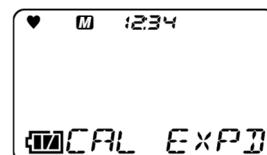


- MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、校正期限設定メニューに戻ります。

<校正期限切れ後の動作設定>

校正期限切れ後の動作を設定できます。

- AIR** ボタンを押して「CAL EXPD」を選択し、
MODE ボタンを押す



- AIR** ボタンを押して
校正期限切れ後の動作を選択する
AIR ボタンを押すと、以下の校正期限切れ後の動作が表示されます。

- CONFIRM : 操作によって動作が異なります。**AIR** ボタンを押すと測定モードに進み、**MODE** ボタンを押すと AUTO 校正のシリンダー設定に進みます。

- CANT USE : 測定モードに進めなくなります。**MODE** ボタンを押すか、または 6 秒後に自動で AUTO 校正のシリンダー設定に進みます。

- NO EFFECT : 操作によって動作が異なります。期限切れであることを表示した後、**MODE** ボタンを押すと AUTO 校正のシリンダー設定に進み、何も操作しないと 6 秒後に自動で測定モードに進みます。

初期設定は「CONFIRM」です。



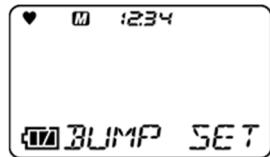
- MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、校正期限設定メニューに戻ります。

6-4-4. バンプテストの設定

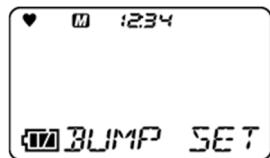
ここでは、バンプテストの各種作動条件を設定することができます。

<バンプテストの設定メニュー>

- 1 ユーザーモードメニューで **AIR** ボタンを押して「**BUMP SET**」を選択し、**MODE** ボタンを押す
バンプテストのメニュー画面が表示されます。



- 2 **AIR** ボタンを押して設定を選択し、**MODE** ボタンを押す



設定項目	LCD 表示	参照ページ
SETTINGS		<バンプ時間の選択>P.48 <バンプ許容率の選択>P.48 <バンプテスト後のガス校正時間の選択>P.49 <バンプテスト後のガス校正のON/OFF>P.49
BUMP.RMDR		<バンプ期限切れ表示のON/OFF>P.50
BUMP INT		<バンプ期限日数の選択>P.50
BUMP.EXPD		<バンプ期限切れ後の動作設定>P.51
ESCAPE		

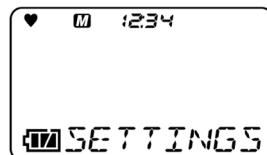
注記

- 設定を終えるときは、**AIR** ボタンを押して「**ESCAPE**」を選択し、**MODE** ボタンを押してください。ユーザー モードメニューに戻ります。

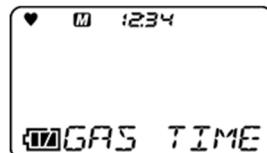
<バンプ時間の選択>

試験ガスを導入する時間を設定します。

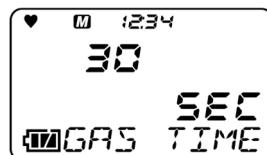
- AIR** ボタンを押して「**SETTINGS**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプテスト設定メニューが表示されます。



- AIR** ボタンを押して「**GAS TIME**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプ時間が表示されます。



- AIR** ボタンを押してバンプ時間を選択し、
MODE ボタンを押す
AIR ボタンを押すと、バンプ時間を、30、45、60、90 秒から選択できます。初期設定は「30秒」です。
- MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、バンプテスト設定メニューに戻ります。



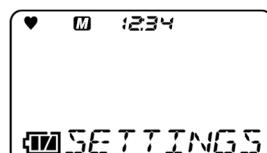
<バンプ許容率の選択>

試験ガスに対するチェックのしきい値を設定します。

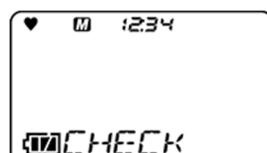
酸素以外：校正濃度±（校正濃度×許容率）

酸素：校正濃度±（校正濃度と 20.9% の差 × 許容率）

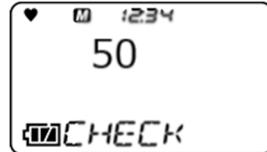
- AIR** ボタンを押して「**SETTINGS**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプテスト設定メニューが表示されます。



- AIR** ボタンを押して「**CHECK**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプ許容率が表示されます。



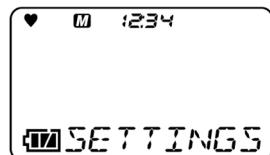
- AIR** ボタンを押してバンプ許容率を選択し、
MODE ボタンを押す
AIR ボタンを押すと、バンプ許容率を、10、20、30、40、50%から選択できます。初期設定は「50%」です。
- MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、バンプテスト設定メニューに戻ります。



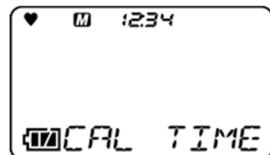
<バンプテスト後のガス校正時間の選択>

バンプテスト失敗後に行うガス校正の時間を選択します。

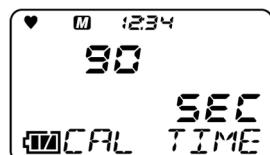
- AIR** ボタンを押して「**SETTINGS**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプテスト設定メニューが表示されます。



- AIR** ボタンを押して「**CAL TIME**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプテスト後に行うガス校正の時間が表示されます。



- AIR** ボタンを押してバンプテスト後のガス校正時間を選択し、**MODE** ボタンを押す
AIR ボタンを押すと、バンプテスト後に行うガス校正の時間を、90、120 秒から選択できます。
初期設定は「90 秒」です。

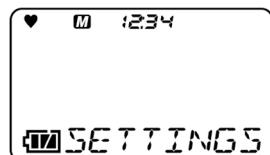


- MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、バンプテスト設定メニューに戻ります。

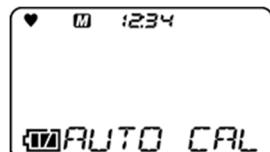
<バンプテスト後のガス校正の ON/OFF>

バンプテストに失敗した場合、自動でガス校正を行う機能を ON/OFF できます。

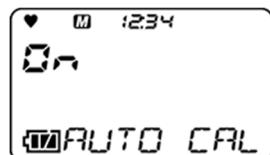
- AIR** ボタンを押して「**SETTINGS**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプテスト設定メニューが表示されます。



- AIR** ボタンを押して「**AUTO CAL**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプテスト失敗後のガス校正の ON/OFF 選択が表示されます。



- AIR** ボタンを押してバンプテスト失敗後のガス校正の **ON/OFF** を選択し、**MODE** ボタンを押す
AIR ボタンを押すと、バンプテスト失敗後のガス校正の ON/OFF を選択できます。初期設定は「ON」です。



- MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、バンプテスト設定メニューに戻ります。

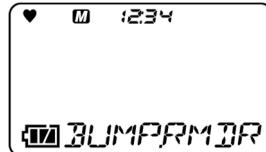
<バンプ期限切れ表示の ON/OFF>

バンプテスト期限切れ通知の選択を行います。

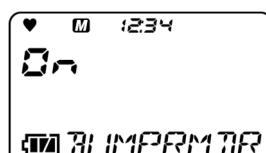
1 **AIR** ボタンを押して「BUMP.RMDR」を選択

し、**MODE** ボタンを押す

バンプテスト期限切れ通知の ON/OFF 選択が表示されます。

2 **AIR** ボタンを押してバンプ期限切れ表示の ON/OFF を選択する

AIR ボタンを押すと、バンプ期限切れ表示の ON/OFF を選択できます。初期設定は「OFF」です。

3 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、バンプテスト設定メニューに戻ります。

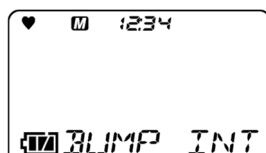
<バンプ期限日数の選択>

バンプテスト実施後にバンプ期限切れ通知をするまでの期間を設定します。

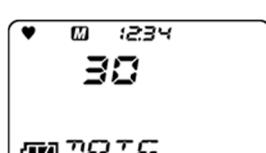
1 **AIR** ボタンを押して「BUMP INT」を選択し、

MODE ボタンを押す

バンプテスト期限日数を選択できます。

2 **AIR** ボタンを押してバンプ期限日数を選択する

AIR ボタンを押すと、バンプ期限日数を 0 ~ 365 日から選択できます。初期設定は「30 日」です。

3 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、バンプテスト設定メニューに戻ります。

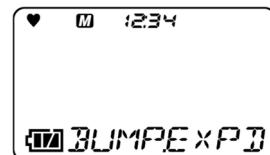
注記

- 30 日を超える設定を行うと、ドッキングステーション SDM-3R に接続した際に、SDM-3R において値の異常と診断される場合があります。その場合は本設定を 30 日以下にしてください。

<バンプ期限切れ後の動作設定>

バンプテストの期限切れ表示後の動作を選択します。

- 1 **AIR** ボタンを押して「**BUMP.EXPD**」を選択し、
MODE ボタンを押す
バンプ期限切れ動作を選択できます。



- 2 **AIR** ボタンを押してバンプ期限切れ動作確認後の操作を選択する

AIR ボタンを押すと、以下のバンプ期限切れの場合の動作が表示されます。

・CONFIRM : 操作によって動作が異なります。**AIR** ボタンを押すと測定モードに進み、**MODE** ボタンを押すとバンプテストのシリンダー設定に進みます。

・CANT USE : 測定モードに進めなくなります。**MODE** ボタンを押すか、または 6 秒後に自動でバンプテストのシリンダー設定に進みます。

・NO EFFECT : 操作によって動作が異なります。期限切れであることを表示した後、**MODE** ボタンを押すとバンプテストのシリンダー設定に進み、何も操作しないと 6 秒後に自動で測定モードに進みます。

初期設定は「CONFIRM」です。



- 3 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、バンプテスト設定メニューに戻ります。

6-4-5. 警報点設定

ここでは第一～第三の警報点と STEL 警報点、TWA 警報点の設定、および設定を初期設定に戻すことができます。

<警報点の設定>

警報点は、1 デジット単位で設定できます。

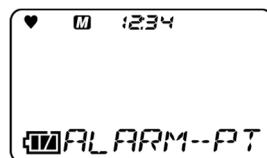
検知対象ガス	1 デジット	設定下限値	設定上限値
可燃性ガス(HC/CH ₄)	1 %LEL	1 %LEL (推奨範囲 10%LEL 以上)	60 %LEL
一酸化炭素(CO)	1 ppm	12 ppm (推奨範囲 25ppm 以上)	2000 ppm
硫化水素(H ₂ S)	0.1 ppm	0.5 ppm (推奨範囲 1.0ppm 以上)	200.0 ppm

検知対象ガス	1 デジット	第一警報/第二警報		第三警報	
		設定下限値	設定上限値	設定下限値	設定上限値
酸素(O ₂)	0.1 vol%	0.0 %	20.0 %	21.8 %	40.0 %

注記

- 警報点は第一警報 ≤ 第二警報 ≤ 第三警報(酸素の場合は第一警報 ≥ 第二警報)となるように設定してください。
- 警報の設定は機器の性能に見合う範囲でご使用ください。警報設定値を推奨範囲未満に設定した場合、誤警報の原因となることがあります。

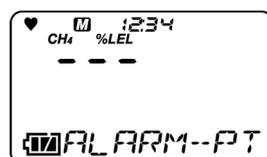
- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押し
て「**ALARM-PT**」を選択し、**MODE** ボタンを
押す



- 2 **AIR** ボタンを押してガスの種類を選択し、
MODE ボタンを押す

AIR ボタンを押すたびに、検知対象ガスおよび
警報点リセット画面(P.53)が表示されます。

MODE ボタンを押すと、第一警報点
(WARNING)の設定画面が表示されます。



- 3 **AIR** ボタンを押して第一警報点の数値を選択
し、**MODE** ボタンを押す

第二警報点(ALARM)の設定画面が表示され
ます。



- 4 **AIR** ボタンを押して第二警報点の数値を選択
し、**MODE** ボタンを押す

第三警報点(ALARM H)の設定画面が表示さ
れます。



5 **AIR** ボタンを押して第三警報点の数値を選択し、**MODE** ボタンを押す

有毒性ガスの場合には、続けて STEL、TWA の設定画面が表示されますので、同様の操作で設定してください。

「END」が表示され、警報点リセット画面が表示されます。



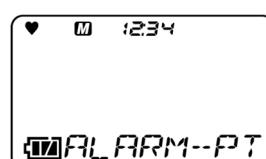
注記

- 設定をリセットするときは、「警報点のリセット」(P.53)を参照してください。本器が正しく設定されていない場合には、「警報点のリセット」が表示されない場合があります。このようなときは、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
- 警報点については、「4.警報動作」(P.18)を参照してください。

<警報点のリセット>

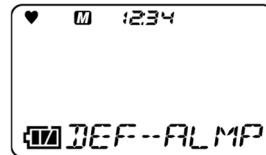
警報点を初期設定時の状態に戻します。

1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押して「ALARM-PT」を選択し、**MODE** ボタンを押す



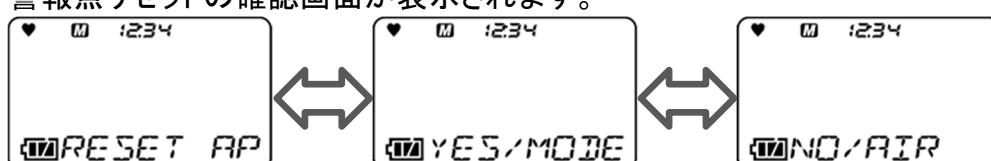
2 **AIR** ボタンを数回押す

警報点リセット画面が表示されます。



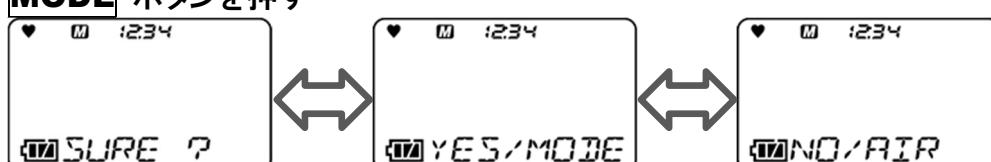
3 **MODE** ボタンを押す

警報点リセットの確認画面が表示されます。



リセットを中止するときは、**AIR** ボタンを押してください。

4 **MODE** ボタンを押す



警報点リセットの確認画面が表示されます。

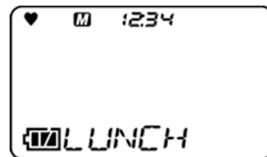
5 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、ユーザーモードメニューに戻ります。

6-4-6. ランチブレークの ON/OFF

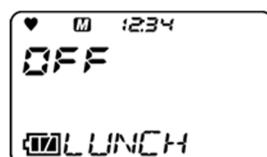
ランチブレークの ON/OFF を行うことができます。ランチブレークは、前回電源を OFF したときの TWA 値と PEAK 値を保持し、起動時に読み出して測定を継続する機能です。

- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押し
て「**LUNCH**」を選択し、**MODE** ボタンを押す
ランチブレークの設定画面が表示されます。



- 2 **AIR** ボタンを押してランチブレークの
ON/OFF を選択する

AIR ボタンを押すと、ランチブレークの
ON/OFF を選択できます。初期設定は「OFF」
です。



- 3 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、ユーザーモードメニューに
戻ります。

注記

- ランチブレークを ON にすると、電源投入時に前回電源 OFF したときの TWA 値と PEAK 値を保持して
測定を継続するか、または前回電源 OFF したときの値をリセットするか確認する画面が表示されます。

6-4-7. コンファメーションビープ設定

コンファメーションビープは、本器が正常に動作しているかを音で知らせる機能です。

測定中、設定された間隔ごとにブザーが鳴ります。また「BUMP/CAL」「ALM ALRT」「B/C/ALM」により、下記機能を動作させることも可能となります。

1. BUMP/CAL

- ・校正期限機能が ON で校正期限切れ、またはバンプ期限機能が ON でバンプ期限切れの場合に動作を開始する。
- ・一回動作を開始すると、搭載されているすべてのガス種を校正またはバンプを行うまで停止しない。
(H2 キャンセルは除く)
- ・間隔設定時間ごとに LED が約 1 秒点灯する。

2. ALM ALRT

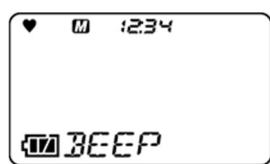
- ・ガス警報を発報した場合に動作を開始する。(マイナスセンサ故障も含む)
- ・一回動作を開始すると、搭載されているすべてのガス種を校正またはバンプを行うまで停止しない。
(H2 キャンセルは除く)
- ・間隔設定時間ごとに LED が約 1 秒点灯する。

3. B/C/ALM

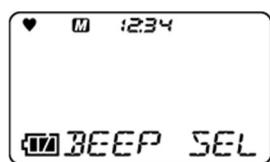
- ・校正期限設定が ON で校正期限切れ、またはバンプ期限機能が ON でバンプ期限切れの場合に動作を開始する。
- ・一回動作を開始すると、搭載されているすべてのガス種を校正またはバンプを行うまで停止しない。
(H2 キャンセルは除く)
- ・間隔設定時間ごとに LED が約 1 秒点灯する。

<コンファームーションビープ設定メニュー>

- 1 ユーザーモードメニューで **AIR** ボタンを押して「**BEEP**」を選択し、**MODE** ボタンを押す
コンファームーションビープのメニュー画面が表示されます。



- 2 **AIR** ボタンを押して設定を選択し、**MODE** ボタンを押す



設定項目	LCD 表示	参照ページ
BEEP SEL		<ビープ動作の設定>P55
BEEP INT		<ビープ音の間隔設定>P.56
ESCAPE		

注記

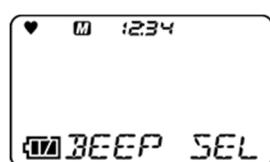
- 設定を終えるときは、**AIR** ボタンを押して「**ESCAPE**」を選択し、**MODE** ボタンを押してください。ユーザー モードメニューに戻ります。

<ビープ動作の設定>

コンファームーションビープの動作を設定できます。

- 1 **AIR** ボタンを押して「**BEEP SEL**」を選択し、
MODE ボタンを押す

ビープ動作の選択画面が表示されます。ただし
設定を変更した場合、「BUMP/CAL」「ALM
ALRT」「B/C/ALM」の動作が停止します。



- 2 **AIR** ボタンを押す

AIR ボタンを押すたびに、以下の画面が表示
されます。

- OFF
- LED(LED 点灯のみ)
- BUZZER(ブザーのみ)



- LED+ BUZZ(LED 点灯とブザー)

- BUMP/CAL

- ALM ALRT

- B/C/ALM

初期設定は「OFF」です。

3 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、コンファームーションビープ設定メニューに戻ります。

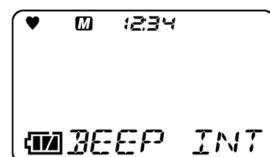
<ビープ音の間隔設定>

コンファームーションビープのブザー音の動作間隔を設定できます。

1 **AIR** ボタンを押して「**BEEP INT**」を選択し、

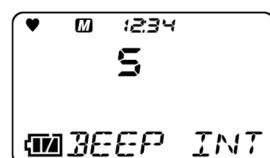
MODE ボタンを押す

ビープ間隔の設定画面が表示されます。



2 **AIR** ボタンを押す

AIR ボタンを押すと、ビープの間隔を、0.5 か 1 ~99 分から選択できます。初期設定は「5 分」です。



3 **MODE** ボタンを押す

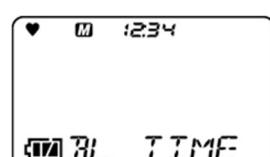
「END」が表示され、コンファームーションビープ設定メニューに戻ります。

6-4-8. LCD 点灯時間設定

LCD 表示部の点灯時間を設定できます。

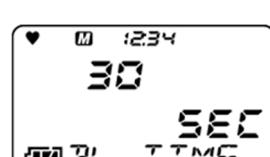
1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押して「**BL TIME**」を選択し、**MODE** ボタンを押す

バックライトの点灯時間設定画面が表示されます。



2 **AIR** ボタンを押しバックライトの点灯時間を選択する

AIR ボタンを押すと、バックライトの点灯時間を、OFF、1~255 秒から選択できます。初期設定は「30 秒」です。



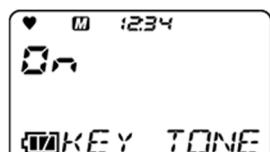
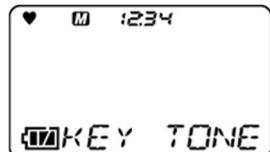
3 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、ユーザーモードメニューに戻ります。

6-4-9. キー操作音の ON/OFF

キー操作音の ON/OFF 設定を行います。

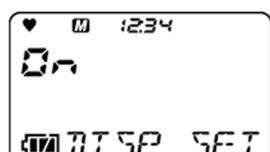
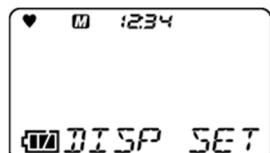
- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押して「KEY TONE」を選択し、**MODE** ボタンを押す
キー操作音の設定画面が表示されます。
- 2 **AIR** ボタンを押しキー操作音の **ON/OFF** を選択する
AIR ボタンを押すと、キー操作音の ON/OFF を選択できます。初期設定は「ON」です。
- 3 **MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、ユーザーモードメニューに戻ります。



6-4-10. ディスプレイモード項目表示の ON/OFF

ディスプレイモードの項目に、設定できる項目を表示するかどうかの ON/OFF 設定を行います。
OFF に設定した場合、ディスプレイモードにて「可燃性ガス読替設定」の項目などが表示されなくなります。

- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押して「DISP SET」を選択し、**MODE** ボタンを押す
ディスプレイモード項目表示の設定画面が表示されます。
- 2 **AIR** ボタンを押しディスプレイモード項目表示の **ON/OFF** を選択する
AIR ボタンを押すと、ディスプレイモード項目表示の ON/OFF を選択できます。初期設定は「ON」です。
- 3 **MODE** ボタンを押す
「END」が表示され、ユーザーモードメニューに戻ります。



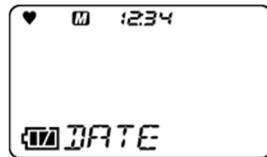
6-4-11. 日時設定

内部時計の日時設定を行います。

- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押し
て「**DATE**」を選択し、**MODE** ボタンを押す

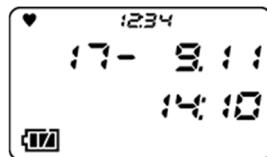
日時設定画面が表示されます。

点滅している項目を設定することができます。



- 2 **AIR** ボタンを押して、設定項目を選択し、
MODE ボタンを押す

年→月→日→時→分の順に、日時を設定してください。



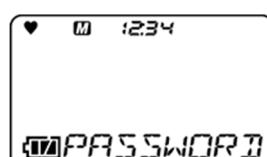
「分」の項目を合わせて **MODE** ボタンを押すと、「END」が表示され、ユーザーモードメニューに戻ります。

6-4-12. ユーザーパスワード設定

ユーザーモードへの遷移をパスワードで保護することができます。なお、パスワードは 0000～9999 の間で設定することができます。

- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押し
て「**PASSWORD**」を選択し、**MODE** ボタン
を押す

ユーザーモードのパスワード設定画面が表示され
ON/OFF が設定できます。

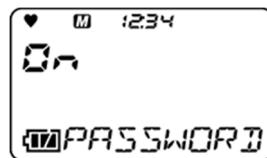


- 2 **AIR** ボタンを押して「**ON**」を選択し、**MODE**
ボタンを押す

パスワード入力画面が表示されます。

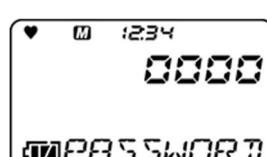
初期設定は「0000」です。

「0000～9999」の間で設定できます。



- 3 **AIR** ボタンを押して、**0～9** を選択し、**MODE**
ボタンを押す

最初の桁に最初のパスワードが入力され、次の桁が
点滅します。



最後の桁を入力して **MODE** ボタンを押すと、「END」
が表示され、ユーザーモードメニューに戻ります。

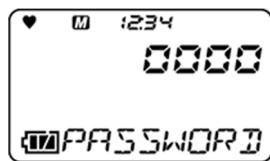
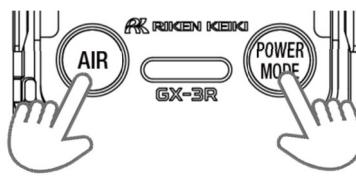
<パスワードを設定した場合のユーザーモードへの入りかた>

- 1 電源を切った状態で、**AIR** ボタンと **POWER** ボタンを押す

“ピッ”と鳴ったら、ボタンから指を離してください。パスワード入力画面が表示されます。

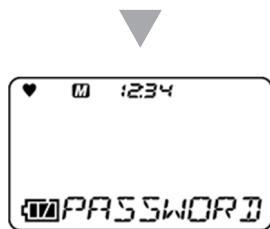
- 2 設定したパスワードを入力する

AIR ボタンを押して数値を選択し、**MODE** ボタンを押して決定します。



全てのパスワードを入力すると、ユーザーメニューが表示されます。

パスワードが正しくない場合、エラー表示後「5-3.始動方法」の「電源投入から測定画面までの遷移」に遷移します。



6-4-13. ROM/SUM 表示

本器のプログラム番号および SUM 値を表示します。

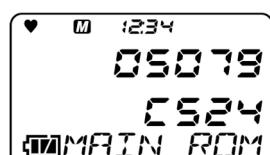
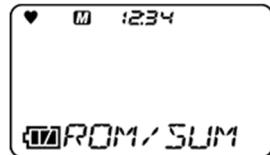
※通常、お客様においては使用しません。

- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押し
て「ROM/SUM」を選択し、**MODE** ボタンを
押す

ROM/SUM 画面が表示されます。

ROM/SUM 画面で、以下の情報が交互に表示
されます。

- ・MAIN ROM
- ・SENS. ROM



- 2 **MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、ユーザーモードメニューに
戻ります。

7

保守点検

本器は防災・保安上重要な計器です。

本器の性能を維持し、防災・保安上の信頼性を向上するために、定期的な保守・点検を実施してください。

7-1. 点検の頻度と点検項目

ご使用になる前に、以下の項目を定期的に点検してください。

- ・日常点検：作業前に点検します。
- ・1ヶ月点検：1ヶ月に1回、警報テストを行って点検します。
- ・定期点検：1年に1回以上(推奨:6ヶ月に1回以上)の頻度で行ってください。

点検項目	点検内容	日常点検	1ヶ月点検	定期点検
電池残量	電池残量が十分であるか確認してください。	○	○	○
濃度表示	新鮮な空気を測定して濃度表示値が0(酸素計では20.9%)であることを確認してください。0でない場合は、周囲に雑ガスがないことを確認してエア校正を行ってください。	○	○	○
本体動作	LCD表示を確認し、故障表示がないか確認してください。	○	○	○
フィルタ	フィルタに汚れがないか確認してください。	○	○	○
警報テスト	警報テストを実施し、警報窓のランプおよびブザー、バイブルーション動作が正常に動作するか確認してください。	—	○	○
ガス感度校正	試験用標準ガスを用いて感度校正をしてください。	—	—	○
ガス警報確認	試験用標準ガスを用いてガス警報の確認を行ってください。	—	—	○



警告

- ・ 万一、本器に異常が見つかった場合は、速やかに販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

注記

- ・ ガス感度校正を行うには専用の器具と試験用標準ガスの作製が必要になります。したがって、ガス感度校正については、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
- ・ 本器に内蔵しているセンサは有効期限があり定期的に交換が必要です。
- ・ ガス感度校正の際、校正できない、エア校正しても指示が戻らない、指示がふらつくなどの症状が出たら、センサの寿命です。販売店または最寄りの弊社営業所までご依頼ください。

メンテナンスサービスについて

弊社では、ガス感度校正などを含めた定期点検、調整、整備などに関するサービスを行っております。

試験用標準ガスを作製するには、所定濃度のガスボンベや、ガス袋など専用器具が必要となります。

弊社指定のサービス員は、作業を行うまでの専用器具や、その他製品に関する専門知識などを備えたスタッフで構成しております。機器の安全動作を維持するために、弊社メンテナンスサービスをご利用ください。メンテナンスサービスの主な内容を以下に記します。詳細は、弊社営業所までお問い合わせください。

＜主なメンテナンスサービスの内容＞

電池残量の確認	電池残量の確認を行います。
濃度表示の確認	ゼロガスを用いて濃度表示値がゼロ(酸素計では 20.9%)であることを確認します。 指示がずれている場合はゼロ校正(ゼロ調整)を行います。
フィルタの確認	ダストフィルタの汚れ具合や目詰まりがないかを確認します。 汚れが目立つ場合や、目詰まりを起こしている場合は交換します。
警報テスト	警報テストを実施し、警報ランプおよびブザー、バイブレーションが正常に動作することを確認します。
ガス感度校正	試験用標準ガスを用いて感度校正を行います。
ガス警報確認	試験用標準ガスを用いてガス警報を確認します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 警報確認(警報設定値に達した際に警報の発信を確認) ● 遅れ時間確認(警報を発信するまでの遅れ時間を確認) ● ブザー、ランプ、バイブレーション、濃度表示の確認(警報 3 段階、それぞれの動作を確認)
機器の清掃・修繕 (目視診断)	機器外観の汚れや傷を確認し、目立った箇所を清掃・修繕します。 亀裂や破損がある場合は、部品を交換します。
機器の操作確認	ボタン操作をして各種機能の動作確認や、パラメーターなどをチェックします。
劣化部品の交換	センサやフィルタなど、劣化部品を交換します。

7-2. ガス校正

本器のガス校正では、エア校正に加えて、あらかじめ設定したガス濃度値で校正を行う AUTO 校正を実施できます。

ガス感度校正を行うには専用の器具と校正用ガスが必要になりますので、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。



注意

- ライターガスを使用して本器の感度点検を行わないでください。ライターガスに含まれる成分により、センサの性能を劣化させる恐れがあります。

7-2-1. ガス校正の準備

ここでは、ガス校正用キャップ(簡易版)を用いて校正する方法を紹介します。

<準備機材>

- 校正ガス
- ガス袋
- ガス校正用キャップ(簡易版)(ATEX/IECEx仕様にのみ付属)
- ポンプ

<推奨校正ガス濃度>

検知対象ガス	センサ型式	校正ガス	校正ガス濃度
可燃性ガス(HC)	NCR-6309	イソブタン(i-C ₄ H ₁₀)	50 %LEL(0.9 vol%)
可燃性ガス(CH ₄)	NCR-6309	メタン(CH ₄)	50 %LEL(2.5 vol%)
硫化水素(H ₂ S)	ESR-A1DP または ESR-A13i	硫化水素(H ₂ S)	25.0 ppm
酸素(O ₂)	ESR-X13P	酸素(O ₂) 窒素希釈	12.0 %
一酸化炭素(CO)	ESR-A1DP または ESR-A1CP または ESR-A13P	一酸化炭素(CO)	50 ppm
一酸化炭素(CO)	ESR-A1CP	水素(H ₂) 空気希釈	500 ppm

※水素は 10°C~30°Cが校正温度範囲です。

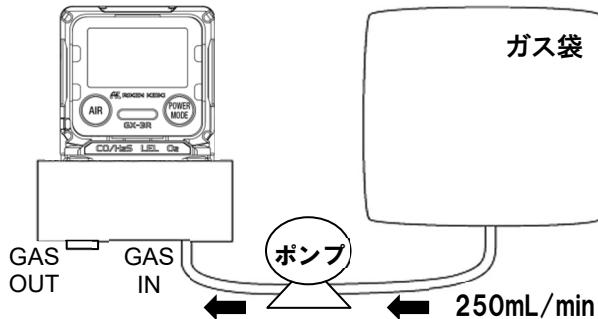
※バンプテスト用ガスも同様となります。

注記

- 可燃性ガス読替機能を使用している場合にも、読替ガスを用いてガス校正およびバンプテストを行わないでください。ガス校正およびバンプテストは、必ず上表に記載された校正ガスを使用して実施してください。

<ガス供給方法>

本器にガス校正用キヤップ(簡易版)を装着し、下記の通りにガス袋を接続して吸引流量 250 mL/min にてガスを導入して、指示値上昇から 60 秒後に校正を実行します。



警告

校正ガスについて

校正用ガスには危険性を含むガス(可燃性ガス、毒性ガス、酸素欠乏など)を使用することになりますので、ガスおよび関連する治工具の取扱には十分留意してください。

ガス袋について

正確に校正を行うため、ガス袋はガス種ごと、および濃度ごとに使い分けてください。

ガス校正する場所について

- ガス校正作業は、密閉された空間で行わないでください。
- ガス校正を行う際は、シリコーン、スプレー缶のガスなどを使用しない場所で行ってください。
- 常温で温度の変動の小さい($\pm 5^{\circ}\text{C}$ 以内)室内で行ってください。

一酸化炭素センサ(ESR-A1CP)のガス校正について

- 水素干渉を補正する機能を備えた一酸化炭素センサ(ESR-A1CP)は、一酸化炭素と水素のそれぞれについて校正が必要です。
- 校正に使用する一酸化炭素、水素は、それぞれ単独のガスを使用してください。混合ガスを使用した場合でも校正の操作は可能ですが、正しい感度に校正できないため、不正確な濃度が表示されます。
- 水素感度の校正を行わないと、水素が共存する環境で測定を行った場合に、一酸化炭素の指示値が高め、または低めに出ることがあります。



注意

- ガスを流す際、GAS OUT 側を大気開放して安全な場所にガスを排気するか、またはガス袋を用いてガスを回収してください。
- 乾燥した環境で長期間使用、保管されますと水素のガス感度校正ができなくなる場合があります。水素ガス感度校正時に FAIL SENSOR が表示された場合は、湿度が十分に存在する環境で本体を一晩以上放置してから再度ガス校正を行ってください。ただし CO ガス感度校正ができなくなった場合は販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換を依頼ください。

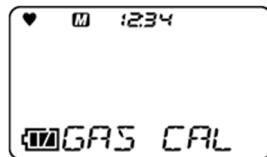
注記

- 上記の他に、RP-3R(オプション)や SDM-3R(オプション)を用いてガス校正を行うこともできます。なお、RP-3R(オプション)を用いる場合、ポンプモードは Low モードを使用してください。

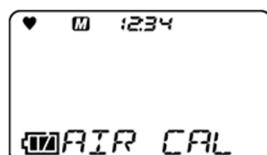
7-2-2. ガス校正の設定メニュー

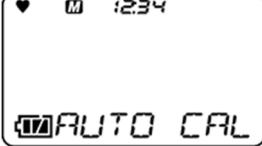
ここでは、「エア校正」、「オート校正の校正濃度設定」、「オート校正のシリンダー設定」、「オート校正」を行うことができます。

- 1 ユーザーモードメニューで **AIR** ボタンを押して「**GAS CAL**」を選択し、**MODE** ボタンを押す
ガス校正メニューが表示されます。



- 2 **AIR** ボタンを押して設定を選択し、**MODE** ボタンを押す



設定項目	LCD 表示	参照ページ
AIR CAL		「7-2-3. エア校正」(P. 65)
AUTO CAL		「7-2-4. AUTO 校正」(P.66)
ESCAPE		

注記

- 設定を終えるときは、**AIR** ボタンを押して「ESCAPE」を選択し、**MODE** ボタンを押してください。ユーザー モードメニューに戻ります。

7-2-3. エア校正



警告

- エア校正を周辺空気で行う場合は、周辺が新鮮な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスや干渉ガスなどが存在する状態で行うと、正しいゼロ調整が行えず、実際にガスが漏洩した場合に危険です。



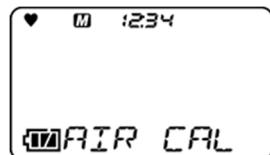
注意

- エア校正は、使用環境に近い状態の圧力、温湿度条件下で、かつ新鮮な大気中で行ってください。
- エア校正は、指示が安定してから行ってください。

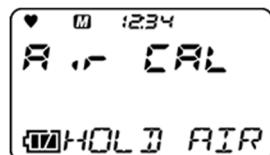
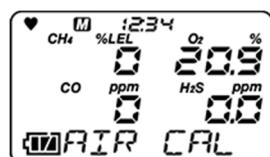
注記

- エア校正に失敗した場合、「AIR CAL」の表示とともに、不良となったセンサの測定値に「FAIL」と表示されます。**MODE** ボタンを押して故障警報(校正不良)を解除してください。不良となったセンサはエア校正を実施せず校正前の値で濃度を算出します。
- エア校正は、測定モードからも行うことができます。(P.27)
- ロングライバッテリー設定 ON の状態で可燃性ガスの読替機能を使用する場合、原理上、電源投入後一時的に指示値が上昇し、警報設定値によってはガス警報を発報する可能性があります。電源投入後 5 分程度経過した後、ゼロ校正を実施した上でご使用ください。
特にトルエン、キシレン、n-ノナン、メチルイソブチルケトンは指示が比較的に上昇する傾向にあるため、ロングライバッテリー設定 OFF の状態で使用することを推奨します。

- 1 **AIR** ボタンを押して「**AIR CAL**」を選択し、
MODE ボタンを押す
エア校正画面が表示されます。



- 2 **AIR** ボタンを押し続ける



3 「RELEASE」が表示されたら、指を離す

エア校正が実行されます。



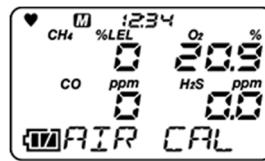
エア校正の結果、成功すると「PASS」が表示されます。



エア校正後の現在の濃度が表示され、ガス校正のメニュー画面に戻ります。

校正に失敗した場合には「FAIL」が表示されます。

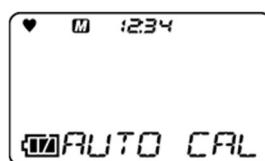
「END」が表示され、ガス校正のメニュー画面に戻ります。



7-2-4. AUTO 校正

各ガスを設定された濃度で校正します。

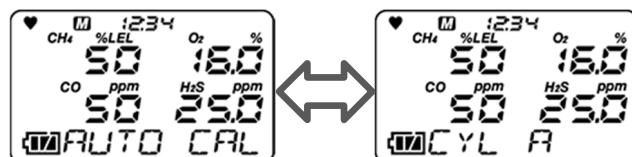
- AIR** ボタンを押して「AUTO CAL」を選択し、**MODE** ボタンを押す



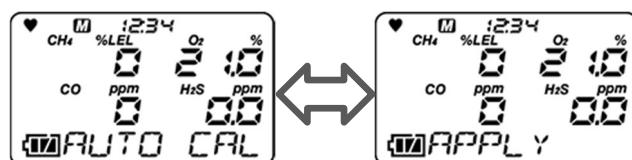
- AIR** ボタンを押して校正するシリンドラーを選択し、**MODE** ボタンを押す

AIR ボタンを押すたびにシリンドラーA～E のガス種およびガス濃度が表示されます。

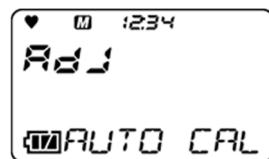
シリンドラーの設定については「7-2-6. AUTO 校正のシリンドラー設定」(P.68)を参照してください。



- 校正ガスを導入し、60 秒後に**MODE** ボタンを押す



AUTO 校正が実行されます。



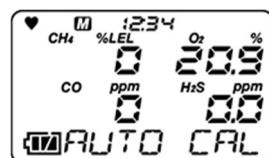
AUTO 校正を成功すると、「PASS」が表示されます。

校正に失敗した場合には「FAIL」が表示されます。

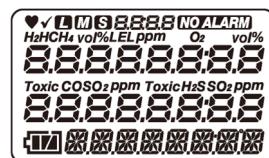


AUTO 校正後の濃度が表示されます。

国内防爆仕様のみ、AUTO 校正成功後、AUTO 校正後の濃度とセンサ余力値が表示されます。



測定開始画面へ移ります。



警告

- AUTO 校正を行う前に、必ずエア校正を行ってください。可燃性ガスセンサを搭載している仕様の場合、AUTO 校正後に右記画面が表示される場合があります。右記画面が表示された場合には MODE ボタンを押すか、または 5 秒経過すると自動で警報が解除されます。
- 右記画面は、シリコーン化物、ハロゲン化物などにより可燃性センサが被毒影響を受けることで表示されます。右記画面が表示された場合、読替機能が使用できるのは「6-2-2. 可燃性ガス読替の設定」の「読替ガス種一覧」にある「読替制限時読替可否」欄に「○」印が記載されているガス種のみです。引き続き、「×印」が記載されているガス種に対して読替機能を使用する場合には、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

注記

- AUTO 校正を行う前に必ずエア校正を行ってください。

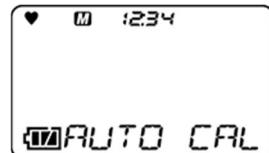
7-2-5. AUTO 校正から測定開始画面への切り替え

ここでは、AUTO 校正から測定開始画面への切り替えを説明しています。

- 1 **AIR** ボタンを押して「**AUTO CAL**」を選択し、

MODE ボタンを押す

AUTO 校正画面が表示されます。



- 2 **AIR** ボタンを押して「**START**」を選択し、

MODE ボタンを押す



LCD が全点灯して、測定開始画面へ移ります。



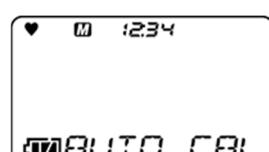
7-2-6. AUTO 校正のシリンダー設定

ここでは、校正するガスのグループ(シリンダー)設定を行います。シリンダーは A～E まで設定できます。

- 1 **AIR** ボタンを押して「**AUTO CAL**」を選択し、

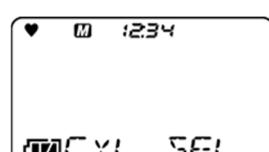
MODE ボタンを押す

AUTO 校正画面が表示されます。



- 2 **AIR** ボタンを押して「**CYL SEL**」を選択し、

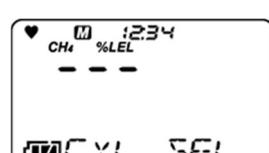
MODE ボタンを押す



- 3 **AIR** ボタンを押す

AIR ボタンを押すたびに、検知対象ガスが順に表示されます。

さらに **AIR** ボタンを押すと「ESCAPE」を表示してから手順 1 の画面に戻ります。



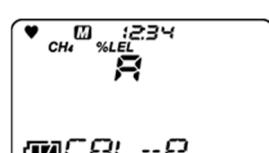
- 4 シリンダー設定を変更するセンサ選択画面で、

MODE ボタンを押す

- 5 **AIR** ボタンを押して、シリンダーA～E を選択

し、**MODE** ボタンを押す

「END」が表示され、3 の画面に戻ります。



7-2-7. AUTO 校正の校正ガス濃度選択

ここでは、各種センサの校正ガス濃度選択について、説明しています。
校正ガスの濃度は、設定可能範囲内で、1 デジットの単位で設定できます。

<校正ガス濃度設定可能範囲について>

検知対象ガス	センサ型式	校正ガス	1デジット	設定下限値	設定上限値
可燃性ガス(HC)	NCR-6309	イソブタン(i-C ₄ H ₁₀)	1 %LEL	1 %LEL	75 %LEL
可燃性ガス(CH ₄)	NCR-6309	メタン(CH ₄)	1 %LEL	1 %LEL	75 %LEL
硫化水素(H ₂ S)	ESR-A1DP または ESR-A13i	硫化水素(H ₂ S)	0.1 ppm	0.5 ppm	200.0 ppm
酸素(O ₂)	ESR-X13P	酸素(O ₂)	0.1 vol %	0.0 vol %	18.0 vol %
一酸化炭素(CO)	ESR-A1DP または ESR-A1CP または ESR-A13P	一酸化炭素(CO)	1 ppm	12 ppm	2000 ppm
一酸化炭素(CO)	ESR-A1CP	水素(H ₂)	1 ppm	25 ppm	2000 ppm

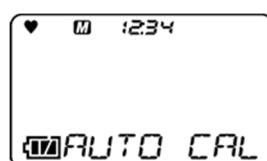
※CO(-H₂)は、CO と H₂の混合ガスで校正せず、単ガスで校正してください。

※水素は 10°C～30°Cが校正温度範囲となります。

- 1 **AIR** ボタンを押して「AUTO CAL」を選択し、

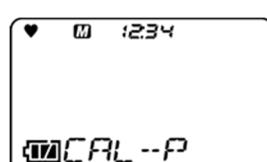
MODE ボタンを押す

AUTO 校正画面が表示されます。



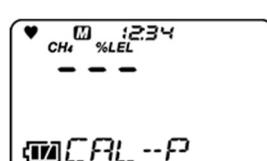
- 2 **AIR** ボタンを押して「CAL-P」を選択し、

MODE ボタンを押す



- 3 **AIR** ボタンを押して、校正ガスの種類を選択する

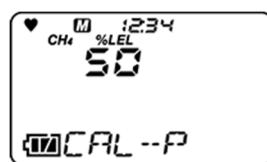
AIR ボタンを押すたびに、検知対象ガスが順に表示されます。さらに **AIR** ボタンを押すと「ESCAPE」を表示してから手順 1 の画面に戻ります。



- 4 校正ガス濃度を変更するセンサ選択画面で、

MODE ボタンを押す

校正濃度変更画面が表示されます。



- 5 **AIR** ボタンを押して、校正濃度を選択し、

MODE ボタンを押す

「END」が表示され、3 の画面に戻ります。

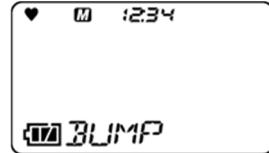
7-3. バンプテスト(BUMP TEST)

本器はバンプテスト(機能検査)を行う機能を備えています。

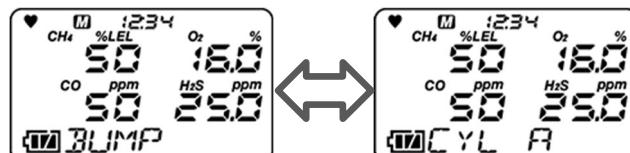
7-3-1. バンプテスト(BUMP TEST)の実施

シリンドーA～E から選択したガス種について、バンプテストを行うことができます。校正ガスと同様に、バンプテスト用ガスを準備してください(P.62)。

- 1 ユーザーモードメニューで、**AIR** ボタンを押し
て「**BUMP**」を選択し、**MODE** ボタンを押す
バンプテスト画面が表示されます。

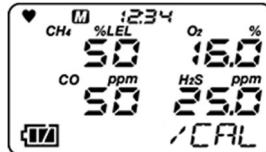
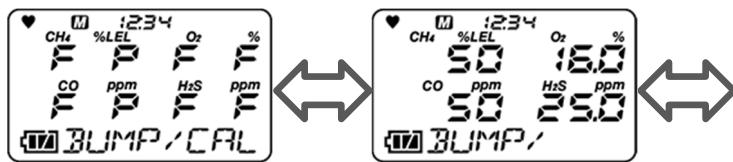


- 2 **AIR** ボタンを押してバン
プテストするシリンドーを
選択し、**MODE** ボタンを
押す
バンプテスト用ガスを導入
してください。
バンプテストが実行されま
す。



バンプテスト失敗後にガス校正を行う設定の場
合、
バンプテストに失敗したら自動でガス校正を実
施します。

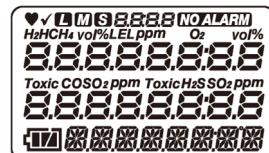
バンプテストおよびガス校正終了後、バンプテ
スト結果(左)およびガス校正結果(右)、バンプ
テスト時の指示値、ガス校正後の指示値が表
示されます。



P:成功／F:失敗

(校正した場合のみ表示)

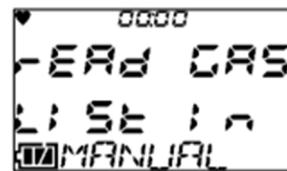
- 3 **MODE** ボタンを押す
「END」が表示され測定開始画面へ移ります。





注意

- 可燃性ガスセンサを搭載している仕様にて、バンプテスト失敗後にガス校正を行った場合、校正後に右記画面が表示される場合があります。右記画面が表示された場合には MODE ボタンを押すか、または 5 秒経過すると自動で警報が解除されます。
- 右記画面は、シリコーン化物、ハロゲン化物などにより可燃性センサが被毒影響を受けることで表示されます。右記画面が表示された場合、読替機能が使用できるのは「6-2-2. 可燃性ガス読替の設定」の「読替ガス種一覧」にある「読替制限時読替可否」欄に「○」印が記載されているガス種のみです。引き続き、「×印」が記載されているガス種に対して読替機能を使用する場合には、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。



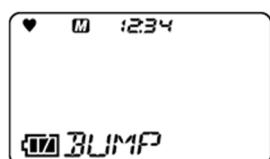
7-3-2. バンプテスト(BUMP TEST)からの測定開始画面への切り替え

ここでは、バンプテスト画面から測定開始画面への切り替えを説明しています。

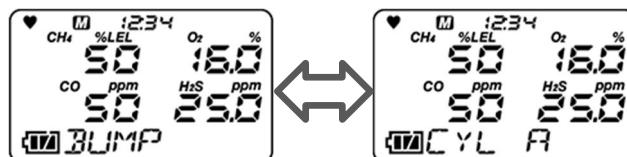
1 **AIR** ボタンを押して「BUMP」を選択し、

MODE ボタンを押す

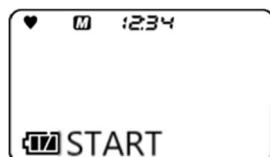
バンプテスト画面が表示されます。



2 **AIR** ボタンを押して
「START」を選択する



3 **MODE** ボタンを押す



LCD が全点灯して、測定開始画面へ移ります。



7-4. 清掃方法

本器が著しく汚れた場合は清掃を行ってください。清掃する際は、必ず電源を切った状態で、ウエスや水で濡らして固く絞った布などで汚れを拭き取ってください。水拭きや有機溶剤や市販のクリーナーを使用して清掃すると、故障の原因となりますので使用しないでください。



注意

- 本器の汚れを拭き取る際は、水をかけたり、アルコールやベンジンなどの有機溶剤や市販のクリーナーを使用しないでください。本器の表面の変色や損傷およびセンサの故障の原因となります。

注記

- 本器が濡れた後は、ブザー放音口や溝に水が溜まっている場合があります。以下の手順で水抜きを行ってください。
 - ① 本器に付着した水分を乾いたタオル、布などでよく拭き取る
 - ② 本器をしっかりと持ち、ブザー放音口を下に向けて 10 回程度振る
 - ③ 内部から出てきた水分をタオル、布などでよく拭き取る
 - ④ 乾いたタオル、布などを下に敷き、常温で放置する

7-5. 各部品の交換**7-5-1. 定期交換部品**

本器の消耗品は、下記の通りです。推奨交換周期を目安に消耗品を交換してください。

<推奨交換部品リスト>

名称	推奨点検周期	推奨交換周期	数量	備考
可燃性ガスセンサ(NCR-6309)	6ヶ月	3年	1個	※
O ₂ センサ(ESR-X13P)	6ヶ月	3年	1個	※
CO/H ₂ S センサ(ESR-A1DP)	6ヶ月	3年	1個	※
CO センサ(ESR-A13P)	6ヶ月	3年	1個	※
CO センサ(ESR-A1CP)	6ヶ月	3年	1個	※
H ₂ S センサ(ESR-A13i)	6ヶ月	3年	1個	※
ダストフィルタ	使用前後	6ヶ月または汚れた場合	1個	部品番号:4777 9343 10 (10枚セット)
干渉ガス除去フィルタ	3ヶ月	6ヶ月	1個	可燃性ガスセンサ(NCR-6309)用 部品番号:4777 9315 90 (5枚セット)
干渉ガス除去フィルタ	3ヶ月	6ヶ月	1個	CO/H ₂ S センサ(ESR-A1DP)用 部品番号:4777 9314 10 (5枚セット)
干渉ガス除去フィルタ	3ヶ月	6ヶ月	1個	CO センサ (ESR-A1CP, ESR-A13P) 部品番号:4777 9316 60 (5枚セット)
干渉ガス除去フィルタ	3か月	6か月	1個	H ₂ S センサ(ESR-A13i)用 部品番号:4777 9317 30 (5枚セット)
パッキン類	-	3~6年	1式	※
バッテリー	-	充放電約 500 回	1個	※

※ 部品交換後に専門のサービス員による動作確認が必要です。機器の安定動作と安全上、専門のサービス員にお任せ願います。販売店または最寄りの弊社営業所にご依頼ください。

注記

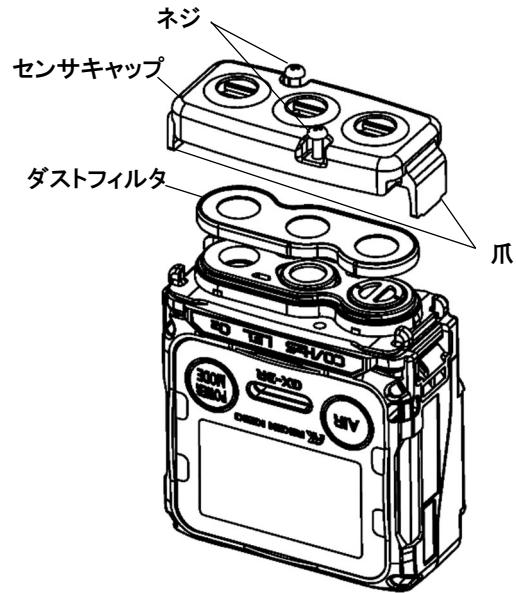
- 上記の交換周期は目安であり、使用条件によって異なる場合があります。また、保証期間を表すものではありません。交換時期は定期点検の結果により変動することがあります。

7-5-2. フィルタの交換

ダストフィルタや各干渉ガス除去フィルタなどは消耗部品です。汚れの具合を見て定期的に交換してください。

<ダストフィルタの交換方法>

- 1 本体底面のネジ(2か所)を緩め、爪(2か所)を外す
- 2 センサキャップを外し、装着されているダストフィルタを新しいものと交換する
- 3 センサキャップを取り付け、爪(2か所)を力チツというまで押す
- 4 ネジを締め付けて固定する



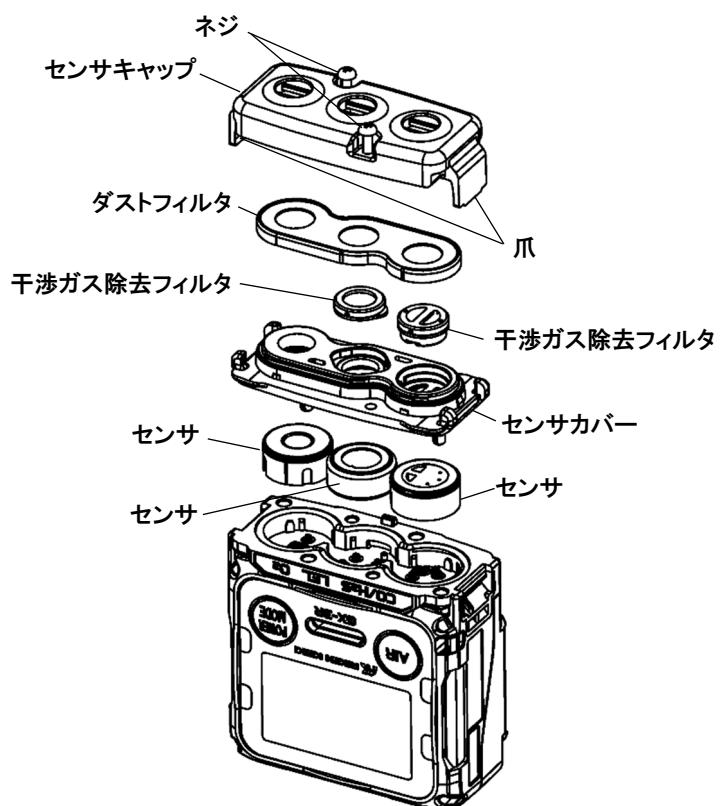


警告

- ダストフィルタは正しく装着してください。ずれて装着すると機能を満たしません。
- フィルタの交換は6ヶ月ごとに行ってください。また、6ヶ月未満であっても、汚れた場合はその都度交換してください。
- ダストフィルタや各干渉ガス除去フィルタなど交換の際は、<フィルタの交換方法>の手順どおりに行い、ネジをしっかりと締めつけ、フィルタキャップの爪(2か所)を確実に装着してください。ネジが緩んでいたり、フィルタキャップの爪が確実に装着されていないと機器内部にゴミが入る原因となります。また、接触面に微細なゴミがわずかでも挟まると機器内部にゴミが入る原因となります。
- ゴムパッキンを傷つけないでください。
- 性能を維持するため、すべての箇所のゴムパッキンは異常の有無にかかわらず、3~6年ごとに交換することをお勧めします。
- ダストフィルタや各干渉ガス除去フィルタなどは、必ず本器(GX-3R)専用品を使用してください。類似品を使用すると、ガス検知性能に悪影響を及ぼしたり、機器内部に水が浸入したりする原因となります。

<各干渉ガス除去フィルタなどの交換方法>

- 1 本体底面のネジ(2か所)を緩め、爪(2か所)を外す**
- 2 センサキャップ、ダストフィルタ、干渉ガス除去フィルタの順に外し、干渉ガス除去フィルタを新しいものと交換する**
- 3 ダストフィルタを元の位置に置く**
- 4 センサキャップを取り付け、爪(2か所)をカチッというまで押す**
- 5 ネジを締め付けて固定する**





警告

- 各干渉ガス除去フィルタは正しく装着してください。すべて装着するとガスが漏れ、正しく検知できない場合があります。
- ダストフィルタは正しく装着してください。すべて装着すると機能を満たしません。
- フィルタの交換は6ヶ月ごとに行ってください。また、6ヶ月未満であっても、汚れた場合はその都度交換してください。
- ダストフィルタや各干渉ガス除去フィルタなど交換の際は、<干渉ガス除去フィルタの交換方法>の手順どおりに行い、ネジをしっかりと締めつけ、フィルタキャップの爪(2か所)を確実に装着してください。ネジが緩んでいたり、フィルタキャップの爪が確実に装着されていないと機器内部にゴミが入る原因となります。また、接触面に微細なゴミがわずかでも挟まると機器内部にゴミが入る原因となります。
- ゴムパッキンを傷つけないでください。
- 性能を維持するため、すべての箇所のゴムパッキンは異常の有無にかかわらず、3~6年ごとに交換することをお勧めします。
- ダストフィルタや干渉ガス除去フィルタなどは、必ず本器(GX-3R)専用品を使用してください。類似品を使用すると、ガス検知性能に悪影響を及ぼしたり、機器内部に水が浸入したりする原因となります。
- 各干渉ガス除去フィルタには、各センサ専用のフィルタ以外は装着しないでください。正しく検知ができなくなります。

8

保管および廃棄について

8-1. 保管または長期間使用しない場合の処置

本器は下記の環境条件内で保管してください。

- ・常温、常湿、直射日光の当たらない暗所
- ・ガス、溶剤、蒸気などの発生しない場所

本器が収納されている梱包箱がある場合は、それに入れて保管してください。

梱包箱がない場合は、埃やゴミなどを避けて保管してください。

注記

- ・長時間使用しない場合は、電池マークが一つになる程度まで放電して保管することをお勧めします。満充電のまま保管すると、電池寿命が短くなるなど、電池の劣化が早まる可能性があります。

8-2. 再度使用する場合の処置

本器を保管後、再度使用する場合は、ガス校正を行ってください。



注意

- ・ガス校正を含め、再調整は、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
- ・保管場所と使用場所の温度が 15°C以上急変するような場合は、電源を入れた状態で使用場所と同様の環境下で 10 分程度馴染ませ、新鮮な大気中でエア校正を行ってから使用してください。

8-3. 製品の廃棄

本器を廃棄する場合は、産業廃棄物(不燃物)として地域の法令などに従い、適切な処理をしてください。



警告

- 定電位電解式センサには電解液が入っていますので、絶対に分解しないでください。電解液に触れると皮膚がただれる恐れがあり、眼に入ると失明する恐れがあります。また、衣服に付着した場合、変色したり、穴が開いたりする恐れがあります。
万一、電解液に触れた場合は、触れた部分を直ちに水で十分洗浄してください。電池を廃棄する場合は、地域ごとに定められた方法に従って処分してください。

<EU加盟各国内での廃棄について>

- 電気電子廃棄物(WEEE)指令について



本器に貼付されている左記シンボルマークは、本器とその個々の部品を一般ごみまたは家庭ごみとして廃棄してはならず、適切に分別して廃棄する必要があることを示しています。適切な方法で廃棄することにより、人の健康や環境への潜在的な悪影響を防ぐことができます。

製品を廃棄する際に適切に処理、回収、リサイクルするため、お住まいの国で利用可能な返却および回収システムをご利用ください。使用済みの製品の回収やリサイクルの詳細については、製品を購入された販売店またはサプライヤーにお問い合わせください。

- 電池規則について



本器または電池に貼付されている左記シンボルマークは、電池を一般ごみや家庭ごみと分別して廃棄する必要があることを示しています。

電池を廃棄する際に適切に処理、回収、リサイクルするため、お住まいの国で利用可能な回収システムをご利用の上、適切に廃棄してください。

9

トラブルシューティング

このトラブルシューティングは、全ての不具合の原因を記載したものではありません。よく発生する不具合の原因究明の手助けとなるものを簡単に記載しています。
ここに記載されていない症状や対策を行っても復旧しない場合は、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

9-1. 機器の異常

症状 <画面表示>	原因	処置
電源が入らない	電池が極端に消耗している	0~+40°Cの環境下かつ安全な場所で充電を行ってください。
	[POWER]ボタンを押す時間が不適切	電源を入れるときは [POWER]ボタンを押し、ピッと音が鳴ったら指を離してください。
異常な動作をする	突発的な静電気ノイズなどによる影響	一旦電源を切り、再度電源を入れてください。
電池電圧低下警報 が表示されている < FAIL BATTERY >	電池残量がなくなっている	電源を切り、0~+40°Cの環境下かつ安全な場所で充電を行ってください。
電源投入後、すぐに電源が切れる <TURN OFF>	電池残量がなくなっている	電源を切り、0~+40°Cの環境下かつ安全な場所で充電を行ってください。
エア校正ができない <FAIL SENSOR>	本器の周囲に新鮮な大気を供給していない	新鮮な大気を供給してください。
	センサ感度の劣化	販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換をご依頼ください。
バンプテストができない	供給しているバンプテストガス濃度と設定しているバンプテストガス濃度値が異なる	供給しているバンプテストガス濃度と設定しているバンプテストガス濃度値が合っていることを確認してください。
	センサ感度の劣化	販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換をご依頼ください。

ガス感度校正ができない <FAIL SENSOR>	供給している校正ガス濃度と設定している校正ガス濃度値が異なる	供給している校正ガス濃度と設定している校正ガス濃度値が合っていることを確認してください。
	乾燥による指示低下 (ESR-A1CP H2 の場合のみ)	湿度が十分に存在する環境で本体を一晩以上放置してから再度ガス校正を行ってください。
	センサ感度の劣化	販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換をご依頼ください。

症状 <画面表示>	原因	処置
測定モードにて センサ異常が 表示される <FAIL SENSOR>	センサ感度の劣化	販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換をご依頼ください。 (電源投入時、測定値に「FAIL」と表示された場合は、[MODE] ボタンを押すことで警報を解除できます。故障していないセンサを除き、その他のガスについても使用できます。)
システム異常 <FAIL SYSTEM>	本体回路に異常がある	販売店または最寄りの弊社営業所まで修理をご依頼ください。
	内部の ROM の異常	
	内部の RAM の異常	
	内部の FRAM の異常	
	FLASH 異常	
	基板異常	
	温度センサ異常	
時計異常 <FAIL CLOCK>	内部の時計異常	日時設定を行ってください。(P.58) 頻繁にこのような症状が起こる場合は、内部時計の故障が考えられますので、交換する必要があります。弊社営業所までご連絡ください。
ユーザー モードに 入れない	ユーザー モードのパスワード を 忘れてしまった	販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
充電ランプが緑と橙 に交互点滅をする	充電可能な温度範囲外である	0~+40°C の環境下で充電を行って下さい。

9-2. 指示値の異常

症状 <画面表示>	原因	処置
指示値が上がった (下がった)まま元に戻らない	センサのドリフト	エア校正を行ってください。
	干渉ガスの存在	干渉ガスによる影響を完全になくすことは困難です。除去フィルタなどの対策については、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
	スローリーク	検知対象ガスが微量に漏れている可能性があります(スローリーク)。放置しておくと危険な状態になる可能性がありますので、ガス警報時の対応と同等の対応と処置を施してください。
	環境の変化	エア校正を行ってください。
測定環境に異常がないのにガス警報を発報する	干渉ガスの存在	干渉ガスによる影響を完全になくすことは困難です。干渉ガス除去フィルタなどの対策については、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
	ノイズの影響	一旦電源を切り、再度電源を入れて(再起動)ください。頻繁にこのような症状が起こる場合は、適切なノイズ対策を実施してください。
応答が遅い	ダストフィルタの詰まり	ダストフィルタを交換してください。
	センサ感度の劣化	販売店または最寄りの弊社営業所までセンサ交換をご依頼ください。

10

製品仕様

10-1. 仕様一覧

<共通仕様>

濃度表示	LCD デジタル(7セグメント+14 セグメント+アイコン)
検知方式	拡散式
各種表示	時計表示/電池残量表示/動作状態表示
ブザー音量	約 95dB(30cm 平均的な値)
ガス警報表示	ランプ点滅/ブザー連続変調鳴動/ガス濃度表示点滅/振動
ガス警報動作	自己保持
故障警報・自己診断	システム異常、センサ異常、電池電圧低下、校正不良
故障警報表示	ランプ点滅/ブザー断続/内容表示
故障警報動作	自己保持
伝送仕様	IrDA(データロガ用)
電源	リチウムイオン電池
連続使用時間	約 40 時間(ロングライバッテリーモード ON 時、25°C、無警報、無照明時) 約 25 時間(ロングライバッテリーモード OFF 時、25°C、無警報、無照明時)
使用温度範囲	一時的環境: -40 ~ +60°C(急変なきこと) 連続的環境: -20 ~ +50°C(急変なきこと)
使用湿度範囲	一時的環境: 0 ~ 95%RH(結露なきこと) 連続的環境: 10 ~ 90%RH(結露なきこと)
使用圧力範囲	80-120 kPa(防爆適用範囲は 80 ~ 110kPa)
構造	防塵防滴構造 IP66/68(2m,1h)相当、落下耐久 7m
防爆構造	防爆構造電気機械器具型式検定(国内防爆)仕様: 本質安全防爆構造 ATEX / IECEx 仕様: 本質安全防爆構造 および 耐圧防爆構造
防爆等級	国内防爆 Ex ia IIC T4 Ga ATEX II 1 G Ex da ia IIC T4 Ga / I M1 Ex da ia I Ma(可燃性ガスセンサ有り) II 1 G Ex ia IIC T4 Ga / I M1 Ex ia I Ma(可燃性ガスセンサ無し) IECEx Ex da ia IIC T4 Ga / Ex da ia I Ma(可燃性ガスセンサ有り) Ex ia IIC T4 Ga / Ex ia I Ma(可燃性ガスセンサ無し)
外形寸法	約 58(W) × 65(H) × 26(D)mm(突起部を除く)
質量	約 100g

<センサ別仕様>

項目	検知対象ガス	可燃性ガス メタン(CH ₄)またはイソブタン(i-C ₄ H ₁₀)*
センサ型式		NCR-6309
検知範囲		0-100 %LEL
1 デジット		1 %LEL
警報設定値 (日本仕様)		1st 10 %LEL 2nd 50 %LEL 3rd 50 %LEL OVER 100 %LEL
警報設定値 (海外仕様)		1st 10 %LEL 2nd 25 %LEL 3rd 50 %LEL OVER 100 %LEL
検知原理		ニューセラミック式

* 出荷時 CH4 or HC のいずれかが設定されています(注文時指定)。

項目	検知対象ガス	酸素(O ₂)	一酸化炭素(CO)	硫化水素(H ₂ S)	
センサ型式		ESR-X13P	ESR-A1DP		
測定範囲 (日本仕様)		0-25.0 %	0-500 ppm	0-30.0 ppm	
サービスレンジ (日本仕様)		25.1-40.0 %	501-2000 ppm	30.1-200.0 ppm	
測定範囲 (海外仕様)		0-25.0 %	0-500 ppm	0-100.0 ppm	
サービスレンジ (海外仕様)		25.1-40.0 %	501-2000 ppm	100.1-200.0 ppm	
1 デジット		0.1 %	1 ppm	0.1 ppm	
警報設定値 (日本仕様)	L: 18.0 % LL: 18.0 % H: 25.0 % OVER 警報: 40.0 %	1st: 25 ppm 2nd: 50 ppm 3rd: 50 ppm TWA 警報: 25 ppm STEL 警報: 200 ppm OVER 警報: 2000 ppm	1st: 1.0 ppm 2nd: 10.0 ppm 3rd: 10.0 ppm TWA 警報: 1.0 ppm STEL 警報: 5.0 ppm OVER 警報: 200.0 ppm		
警報設定値 (海外仕様)	L: 19.5 % LL: 18.0 % H: 23.5 % OVER 警報: 40.0 %	1st: 25 ppm 2nd: 50 ppm 3rd: 1200 ppm TWA 警報: 25 ppm STEL 警報: 200 ppm OVER 警報: 2000 ppm	1st: 5.0 ppm 2nd: 30.0 ppm 3rd: 100.0 ppm TWA 警報: 1.0 ppm STEL 警報: 5.0 ppm OVER 警報: 200.0 ppm		
検知原理		定電位電解式			

項目	一酸化炭素 (CO)	一酸化炭素(CO)	一酸化炭素(CO)※	硫化水素(H ₂ S)
センサ型式		ESR-A13P	ESR-A1CP	ESR-A13i
測定範囲 (日本仕様)		0-500 ppm	0-500 ppm	0-30.0 ppm
サービスレンジ (日本仕様)		501-2000 ppm	501-2000 ppm	30.1-200.0 ppm
測定範囲 (海外仕様)		0-500 ppm	0-500 ppm	0-100.0 ppm
サービスレンジ (海外仕様)		501-2000 ppm	501-2000 ppm	100.1-200.0 ppm
1 デジット		1 ppm	1 ppm	0.1 ppm
警報設定値 (日本仕様)		1st:25 ppm 2nd:50 ppm 3rd:50 ppm TWA 警報:25 ppm STEL 警報:200 ppm OVER 警報:2000 ppm	1st:25 ppm 2nd:50 ppm 3rd:50 ppm TWA 警報:25 ppm STEL 警報:200 ppm OVER 警報:2000 ppm	1st:1.0 ppm 2nd:10.0 ppm 3rd:10.0 ppm TWA 警報:1.0 ppm STEL 警報:5.0 ppm OVER 警報:200.0 ppm
警報設定値 (海外仕様)		1st:25 ppm 2nd:50 ppm 3rd:1200 ppm TWA 警報:25 ppm STEL 警報:200 ppm OVER 警報:2000 ppm	1st:25 ppm 2nd:50 ppm 3rd:1200 ppm TWA 警報:25 ppm STEL 警報:200 ppm OVER 警報:2000 ppm	1st:5.0 ppm 2nd:30.0 ppm 3rd:100.0 ppm TWA 警報:1.0 ppm STEL 警報:5.0 ppm OVER 警報:200.0 ppm
検知原理		定電位电解式		

※一酸化炭素センサ(ESR-A1CP)は水素による干渉を低減する補正機能を備えています。この機能は最大 2000 ppm の水素に対して機能します。ただし、40°Cを超える環境で長時間(15 分以上)使用した場合、水素干渉の影響を受け、実際の一酸化炭素濃度より高く指示する可能性があります。

10-2. 付属品一覧

標準付属品（日本仕様）

部品名称	部品番号
ハンドストラップ	0888 0605 90
ベルトクリップ(取付ネジ付き)	4777 9202 40
プロテクトカバー	4777 4161 10
AC アダプター	2594 0898 30

標準付属品（海外仕様）

部品名称	部品番号
ハンドストラップ	0888 0605 90
超薄型アリゲータークリップ(取付ネジ付き)	4777 9203 10
プロテクトカバー	4777 4161 10
AC アダプター	2594 0898 30
EU PLUG	2594 0933 60
ガス校正キヤップ(簡易版)	4777 9369 30

<オプション(別売品)>

部品名称	部品番号
ベルトクリップ(取付ネジ付き)	4777 9202 40
超薄型アリゲータークリップ (取付ネジ付き)	4777 9203 10
ベルト ASSY(取付金具、ネジ付き)	4777 9293 30
フィルタユニットセット(ESR-A1DP 用)5枚セット	4777 9314 10
フィルタユニットセット(NCR-6309 用)5枚セット	4777 9315 90
フィルタユニットセット (ESR-A1CP, ESR-A13P 用)5枚セット	4777 9316 60
フィルタユニットセット(ESR-A13i 用)5枚セット	4777 9317 30
ダストフィルタ 10枚セット	4777 9343 10
保護フィルム 5枚セット	4777 9296 50
革ケース	4777 4257 00
耐熱ケース(非防爆)	4777 4259 40
手動吸引キット(採集棒付き)	4777 9302 80
手動吸引キット(浮子式 8m チューブ付き)	4777 9304 20
手動吸引キット(錘入り 30m チューブ付き)	4777 9305 00
AU PLUG	2594 0932 90
EU PLUG	2594 0933 60
UK PLUG	2594 0934 30
ガス校正キヤップ(簡易版)	4777 9369 30
ガス校正キヤップ	4777 9311 00
充電クレードル(BC-3R)	BC-3R 00
充電クレードル壁掛け具	4777 4337 50
充電用 5股ケーブル(接続ケーブル 22.5cm)※	4777 9329 70
充電用 5股ケーブル(接続ケーブル 60cm)※	4777 9319 80
充電用 5股ケーブル(接続ケーブル 120cm)※	4777 9333 20
データロガマネジメントプログラム(SW-GX-3R)	9811 0860 70

※AC アダプターは含まれません。

11 付録

データロガ機能

本器には測定結果を記録したり、ガス警報や故障警報、ガス校正などの各種イベントを記録するデータロガ機能があります。

注記

- データロガ機能にて記録したデータを確認するには、データロガマネジメントプログラム(別売)が必要です。詳しくは、弊社営業所までお問い合わせください。

データロガの機能は 5 種類あります。

(1) インターバルトレンド

電源を入れてから切るまでの測定濃度の変化を記録します。

可燃性ガス、一酸化炭素、硫化水素については平均値、ピーク値、ピーク発生時間を、酸素については平均値、最小値、最小値発生時間、最大値、最大値発生時間を記録します。

記録数は、最新 3600 件のデータを記録します。

3600 件を超えると、最古のデータを削除して最新のデータを記録していきます。

オーバーライトが OFF の場合、3600 件を超えると記録が停止します。

オーバーライトが ON の場合でも、一回の測定で 3600 件記録すると最古のデータを消去せず、記録が停止します。

※ただし、3600 個以内でも最大記録時間を超えた場合は、最古のデータを削除していきます。

インターバル時間に対しての最大記録時間は次のようになります。

インターバル時間	10 秒	20 秒	30 秒	1 分	3 分	5 分	10 分
最大記録時間	10 時間	20 時間	30 時間	60 時間	180 時間	300 時間	600 時間

※標準のインターバル時間は、「5 分」です。

インターバル時間は、「データロガマネジメントプログラム」(別売)で設定できます。

(2) アラームトレンド

警報発報と同時に、発報時間を中心に前後 30 分間(計:1 時間)の測定濃度値の変化を記録します。

アラームトレンドでは、5 秒周期ごとの 5 秒間のピーク値(酸素は最小値)を取得して記録します。

記録数は、最新 8 件分のデータを記録します。

8 件を超えた場合は、最古のデータを削除して最新のデータを記録していきます。

(3) アラームイベント

警報を発報したことを、イベントとして記録します。

記録は、警報発報時間と対象の測定ガスと警報イベントの種類を記録します。

記録数は、最新のイベントから数えて過去最大 100 件分を記録します。

100 件を超えた場合は、最古のデータを削除して最新のデータを記録していきます。

(4) 故障イベント

故障を発報したことを、イベントとして記録します。

記録は、故障発報時間と対象の測定ガスや本体機器情報と故障イベントの種類を記録します。

記録数は、最新のイベントから数えて過去最大 100 件分を記録します。

100 件を超えた場合は、最古のデータを削除して最新のデータを記録していきます。

(5) 校正履歴

校正を実施する際にデータを記録します。

記録は、校正時間と校正前後の濃度値および校正エラーについても記録します。

記録数は、最新の校正履歴から数えて過去 100 回分のデータを保存します。

100 回を超えた場合は、最古のデータを削除して最新のデータを記録していきます。

注記

- 電源投入後、日時表示または電池残量/警報動作表示中に本器の赤外線通信ポートを IrDA 通信可能な位置に置くと、自動で通信モードに移行します。また、[AIR] ボタン、および [POWER] ボタンを押し、本器の赤外線通信ポートを IrDA 通信可能な位置に置くことでも通信モードに移行することができます。
- 通信モードで一定時間以上通信接続が確認されない場合、故障警報を発報します。その場合、再度通信接続を行うか本器の電源を切ってください。

100%LEL=ppm 換算表

下表は、100%LEL 値と ppm 値の基準値換算表を示します。

		STANDARD	IEC	ISO
メタン	CH4	50000 ppm	44000 ppm	44000 ppm
イソブタン	i-C4H10	18000 ppm	13000 ppm	15000 ppm
水素	H2	40000 ppm	40000 ppm	40000 ppm
メタノール	CH3OH	55000 ppm	60000 ppm	60000 ppm
アセチレン	C2H2	15000 ppm	23000 ppm	23000 ppm
エチレン	C2H4	27000 ppm	23000 ppm	24000 ppm
エタン	C2H6	30000 ppm	24000 ppm	24000 ppm
エタノール	C2H5OH	33000 ppm	31000 ppm	31000 ppm
プロピレン	C3H6	20000 ppm	20000 ppm	18000 ppm
アセトン	C3H6O	21500 ppm	25000 ppm	25000 ppm
プロパン	C3H8	20000 ppm	17000 ppm	17000 ppm
ブタジエン	C4H6	11000 ppm	14000 ppm	14000 ppm
シクロヘキサン	C5H10	14000 ppm	14000 ppm	14000 ppm
ベンゼン	C6H6	12000 ppm	12000 ppm	12000 ppm
n-ヘキサン	n-C6H14	12000 ppm	10000 ppm	10000 ppm
トルエン	C7H8	12000 ppm	10000 ppm	10000 ppm
n-ヘプタン	n-C7H16	11000 ppm	8500 ppm	8000 ppm
キシレン	C8H10	10000 ppm	10000 ppm	10000 ppm
n-ノナン	n-C9H20	7000 ppm	7000 ppm	7000 ppm
酢酸エチル	EtAc	21000 ppm	20000 ppm	20000 ppm
イソプロピルアルコール	IPA	20000 ppm	20000 ppm	20000 ppm
メチルエチルケトン	MEK	18000 ppm	15000 ppm	15000 ppm
メタクリル酸メチル	MMA	17000 ppm	17000 ppm	17000 ppm
ジメチルエーテル	DME	30000 ppm	27000 ppm	27000 ppm
メチルイソブチルケトン	MIBK	12000 ppm	12000 ppm	12000 ppm
テトラヒドロフラン	THF	20000 ppm	15000 ppm	15000 ppm

製品保証

1. 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、お買い上げの日から3年以内に故障した場合には無料修理いたします。
2. 修理やメンテナンスなどアフターサービスについては、本社営業部または最寄りの営業所などにお問合せください。
3. 遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
4. 保証期間内でも、次の場合には有料修理とさせていただきます。
(イ) 使用上の誤りおよび不当な修理又は改造による故障および損傷。
(ロ) 弊社および弊社指定のサービス代理店以外で修理または改造された場合の故障および損傷。
(ハ) お買い上げ後の取付場所の移動、輸送、転倒、落下、保管上の不備などによる故障および損傷。
(二) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、異常電圧、定格外の使用電源(電圧、周波数)などの外部要因による故障および損傷。
(ホ) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
(ヘ) 消耗部品(電池・センサなど)の交換。

センサ保証

1. 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、お買い上げの日または、センサ有料交換日から3年以内に故障した場合には無料交換いたします。
但し、購入日または、センサ有料交換日から年1回以上の点検をセンサ保証の条件とさせていただきます。
2. 修理やメンテナンスなどアフターサービスについては、本社営業部または最寄りの営業所などにお問合せください。
3. 遠隔地への出張交換を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
4. 保証期間内でも、次の場合には有料交換とさせていただきます。
(イ) 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書きを守らずに使用した場合。
(ロ) 弊社および弊社指定のサービス代理店以外で修理または改造された場合の故障および損傷。
(ハ) お買い上げ後の取付場所の移動、輸送、転倒、落下、保管上の不備などによる故障および損傷。
(二) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、異常電圧、定格外の使用電源(電圧、周波数)などの外部要因による故障および損傷。
(ホ) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。

改廃履歴

版	修 正	発行日
0	初版	2019/2/1
1	誤記修正	2019/2/27
2	文言追記	2019/3/7
3	文言修正	2019/3/20
4	文言修正、文言追記	2019/4/11
5	文言修正	2019/5/8
6	項目追加	2019/7/1
7	誤記修正、2-4/5-3/6-4/7-2 修正	2019/10/9
8	誤記修正、ダストフィルタ変更、標準付属品追加	2019/12/1
9	誤記修正、DoC 改訂	2020/4/1
10	MOVER 警報値変更、6-2-2 JG 仕様を追記	2020/5/19
11	TYPE L、TYPE M 追加	2020/6/10
12	セーフティーインフォメーション適用規格変更、DoC 改訂	2020/8/1
13	2-2 警告事項追加、セーフティーインフォメーション変更、10-1 JG 注意事項追記、DoC 改訂	2020/8/21
14	製品保証規定およびセンサ保証規定追加	2020/9/8
15	CO 警報設定下限値変更、TYPE N 追加	2020/11/6
16	自己宣言書改訂	2021/10/29
17	誤記修正	2021/12/7
18	4-1 注記を追加、6-2-2 読替リスト追記、6-4-4 バンプ期限日数の選択を変更、6-4-5 警報点の設定下限値変更、注記を追加	2022/3/15
19	1-2. 使用目的 TYPE P 追加、7-2-7 校正ガス濃度設定可能範囲の設定下限値の変更	2022/5/25
20	6-4-3 校正期限日数の初期設定の変更	2022/6/2
21	可燃性ガス読替機能およびロングライフガッテリーに関する注記追加、DoC 改訂	2022/8/2
22	1-2 / 5-5-2 / 10-1 ESR-A1CP に関する注記追加	2023/5/29
23	1-4UKCA マーク追加、2-4 適用規格追加、UKCA DoC 追加	2023/9/11
24	UKEX, UKCA を削除、DoC 改訂	2024/1/10
25	2-4 特定使用条件追加、DoC 改訂	2024/5/31

版	修 正	発行日
26	DoC 削除、8-3 製品の廃棄を修正	2025/8/29
27	2-4 リチウム充電池を追加	2025/11/14
